佐賀県文化財年報 15

2019年度

2021.3

佐賀県　地域交流部
文化・スポーツ交流局 文化課 文化財保護室

例　言

1　本書は、平成31年度及び令和元年度に佐賀県地域交流部文化・スポーツ交流局文化課文化財保護室(以下、「文化財保護室」と必要に応じて略記する)及び佐賀県内の各市町教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査、普及啓発事業等、文化財保護行政の概要についてまとめたものである。なお本年報は、諸般の事情により平成19年度(2007年度)～平成29年度(2017年度)分については作成していない。

2　本書を作成するにあたり、佐賀県及び県内各市町の関係機関、並びに各文化財担当の御理解と御協力を得た。深く感謝する次第である。

3　本書には、平成31年度及び令和元年度に佐賀県内において実施された発掘調査のうち、主に記録保存を目的として行った発掘調査(本調査)と、史跡整備や学術調査を目的として行った確認調査の概要について掲載している。

4　本書の編集は、佐賀県及び市町教育委員会の各担当者が執筆した原稿をもとに、文化財保護室文化財指導担当が行った。各執筆者の氏名は、各々の文章末尾に記載した。

5　指定・登録等文化財に係る記載については、各指定資料に依拠した。

6　標高の表記方法、専門用語、遺構名称等、言い回しの統一をはかるため、作成原稿の内容を一部改変した箇所があるが、これらの文責は編集者に帰するものとする。

目　次

1　文化財保護室の組織と文化財保護の体制
(1)文化財保護室の組織…… 1
(2)佐賀県文化財保護審議会委員…… 2
(3)佐賀県文化財保護指導委員(文化財全般)…… 2
(4)佐賀県文化財保護指導委員(窯跡担当) 2
2　事業の内容
(1)文化財保護体制と文化財普及啓発活動 3
①佐賀県における文化財保護体制…… 3
②文化財保護審議会の運営…… 4
③文化財パトロールの実施…… 4
④窯跡盗掘対策合同会議の開催…… 5
⑤文化財保護強調週間の実施…… 5
⑥第66回文化財防火デー …… 5
⑦天然記念物カササギ生息地保護増殖事業…… 6
⑧銃砲刀剣類登録事務…… 6
⑨吉野ヶ里遺跡に係る普及啓発活動…… 6
1)新北市考古生活フェスティバル2019…… 6
2)弥生ロマン体験事業 …… 7
3)出張体験ワークショップ …… 7
4)吉野ヶ里Days In 九博 …… 7

5）吉野ヶ里遺跡報道30周年記念シンポジウム「吉野ヶ里遺跡報道を語る」…… 8
6）吉野ヶ里遺跡史跡指定30周年記念特別展「吉野ヶ里遺跡－軌跡と未来－」…… 8
7）吉野ヶ里遺跡史跡指定30周年記念シンポジウム「邪馬台国の今－弥生時代研究のフロンティアー」…… 9
⑩「発掘された佐賀2019－佐賀県発掘調査成果速報－」展の開催 …… 9
⑪市町教育委員会における普及啓発活動
1）「発掘された丁銀」展（唐津市）…… 10
2）「唐津城と唐津城跡」唐津城跡市史跡指定記念講演会・現地探訪会（唐津市）… 10
3）国史跡飯洞甕下窯跡発掘調査現地説明会（唐津市）…… 10
4）令和元年度 旧三菱合資会社唐津支店本館特別公開（唐津市）…… 11
5）「戦時中の大発見」展（唐津市）…… 12
6）牟田辺前方後円墳発掘調査速報展（多久市）…… 12
7）日峯社下窯跡現地説明会（伊万里市）…… 13
8）椎ノ峰窯跡群保存活用に係る地元説明会（伊万里市）…… 13
9）「かけらで再発見」展武雄市図書館・歴史資料館企画展
やきものワークショップ（武雄市）…… 14
10）おつぼ山神籠石ウォーキング（武雄市）…… 15
11）「おぎを掘るXⅢ－生立ヶ里遺跡と木製品の世界－」展（小城市）…… 16
12）土生遺跡公園まつり2019（小城市）17
13）「よみがえるレトロモダン」展 旧田代家西洋館国重要文化財指定記念特別展 18
（2）開発事業と文化財保護との調整…… 18
（3）文化財の調査…… 19
1 弾正丸東下（特別史跡 名護屋城跡並陣跡）…… 21
2 島津義弘陣跡（特別史跡 名護屋城跡並陣跡）…… 21
3 水手水路（特別史跡 名護屋城跡並陣跡）…… 22
4 増田遺跡16区（佐賀市）…… 23
5 岡裏遺跡11区（佐賀市）…… 23
6 七ヶ瀬遺跡2区（佐賀市）…… 24
7 陣ノ森遺跡1・2区（佐賀市）…… 25
8 惣座遺跡7区（佐賀市）…… 25
9 鍋島本村遺跡4区（佐賀市）…… 26
10 村徳永遺跡29区（佐賀市）…… 26
11 榎木遺跡8区（佐賀市）…… 27
12 印鑰遺跡3区（佐賀市）…… 27
13 思案橋遺跡（佐賀市）…… 28
14 三重津海軍所跡（佐賀市）…… 28
15 精錬方跡2区（佐賀市）…… 29
16 宇木汲田遺跡（唐津市）…… 30
17 唐津城跡（唐津市）…… 31
18 飯洞甕窯跡（唐津市）…… 31
19 古賀遺跡3区（鳥栖市）…… 33
20 本原遺跡4区（鳥栖市）…… 33
21 門戸口遺跡（鳥栖市）…… 34
22 日峯社下窯跡（伊万里市）…… 36
23 鍋原窯跡（伊万里市）…… 37
24 一の幡古墳群（みやき町）…… 38
25 姫方原遺跡H区（みやき町）…… 39
26 板部城跡（みやき町）…… 40
27 三上遺跡9区（上峰町）…… 41
28 西前田遺跡7区（吉野ヶ里町）…… 42
3 令和元年度の指定・登録等文化財一覧
国指定有形文化財（建造物）…… 43
佐賀県重要文化財（絵画）…… 43
佐賀県重要文化財（工芸品）…… 43
佐賀県重要文化財（考古資料）…… 44
佐賀県名勝…… 44
4 所載遺跡位置図…… 47

Ⅰ　文化財保護室の組織と文化財保護の体制

(Ⅰ)文化財保護室の組織

平成31年4月1日をもって佐賀県教育庁文化財課は、佐賀県地域交流部文化・スポーツ交流局文化課の課内室である文化財保護室に所管替えとなった。これは、文化財保護法及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正(平成31年4月1日施行)に伴うもので、更なる文化財の計画的な保存及び活用を促進し、過疎化・少子高齢化が進む社会における文化財の継承を目指すものである。

〒840－8570　佐賀県佐賀市城内一丁目1－59　(県庁新館6階)

室　長	川内野 修
参　事	白木原 宜
副室長	山川 史
副室長	古川 直樹

文化財指導担当		主な所管業務
係　長	宮崎 博司	埋文指導担当の総括（県東部）、世界遺産調整
係　長	長崎 浩	埋文指導担当の総括（県西部）、窯跡遺掘対策
主　査	樋口 秀信	国・県所管事業（土木・農林）に係る文化財調整、三重津海軍所跡に係る調査支援
主　査	森 宏章	国庫補助金事務、史跡・名勝・天然記念物関係、表彰・叙勲事務
主　査	小野 将史	県費補助金事務、有形文化財関係、国・県重文等建造物・重伝建群修理関係
主　査	加藤 裕一	佐賀城本丸跡埋蔵文化財に係る調査、国庫補助事業（県事業）、埋蔵文化財関係の照会・回答
主　査	野畑 征希	佐賀県「歴史の道」調査事業、現状変更、国・県文化財保護関係文書事務
主　事	大橋 正浩	民俗・無形文化財関係、登録有形文化財（建造物）登録事務、銃砲刀剣類登録、カササギ保護
主　事	土井 翔平	国庫補助事業（県事業）、県内遺跡確認調査、奈良文化財研究所研修・文化庁埋蔵文化財講習会に係る事務
主　事	堤 章子	文化財保護法事務、市町教育委員会指導
主　事	塩見 恭平	熊本県鼎島町へ派遣
文化財調査担当		主な所管業務
主　幹	小松 譲	文化財調査担当の総括
係　長	市川 浩文	九州新幹線、有明海沿岸道路文化財調査の総括
主　査	熊谷 吉朗	西九州自動車道文化財調査、文化財調査研究資料室の運営
主　査	竹川 満	九州新幹線、有明海沿岸道路文化財調査
副主査	越知 睦和	九州新幹線、文化財調査研究資料室、横武収蔵庫の維持・管理・運営
吉野ヶ里遺跡担当		主な所管業務
主　幹	今泉 和孝	総務事務の総括、予算・決算、監査・会検、議会
係　長	渋谷 格	吉野ヶ里遺跡調査の総括
主　査	吉本 健一	吉野ヶ里遺跡調査、史跡現状変更
主　査	松井 美穂	総務事務、給与費、歳入、共通費、課の財産管理
主　査	渡部 芳久	吉野ヶ里遺跡調査、調査事務所の管理・運営
主　事	松尾 さつき	予算の執行管理（報酬・賃金・旅費等）、名義後援

（2）佐賀県文化財保護審議会委員（任期：平成31年4月1日～令和3年3月31日）

部会	専門分野等	氏名	現職名
会長	学識経験者	宮崎 耕治	佐賀大学長
第1部会	絵画・彫刻	井手 誠之輔	九州大学大学院人文科学研究院教授
	建造物	伊東 龍一	熊本大学大学院先端科学研究部教授
	近代美術	吉住 磨子	佐賀大学芸術地域デザイン学部教授
	歴史資料	伊藤 昭弘	佐賀大学地域学歴史文化研究センター准教授
	美術・工芸	野口 朋子	昭和音楽大学講師
第2部会	民俗芸能	金子 信二	前佐賀民俗学会副会長
	工芸	西田 宏子	根津美術館顧問
	陶芸	辻嶋 寿憲	九州産業大学造形短期大学部教授
第3部会	史跡・埋蔵文化財（近世）	渡辺 芳郎	鹿児島大学法文学部教授
	史跡・埋蔵文化財（弥生・古墳）	重藤 輝行	佐賀大学教育研究院教授
	史跡・埋蔵文化財（古墳）	宮元 香織	北九州市立自然史・歴史博物館歴史課学芸員
第4部会	植物	三島 美佐子	九州大学総合研究博物館准教授
	名勝	藤田 直子	九州大学大学院芸術工学研究院准教授

（3）佐賀県文化財保護指導委員（文化財全般 任期：平成31年4月1日～令和2年3月31日）

氏名	担当地区（市町）	氏名	担当地区（市町）
久保山 彰	基山町	本村 昌敏	江北町・大町町・白石町（有明・白石・福富）
黒田 達也	鳥栖市	草場 敦宏	武雄市（武雄・山内・北方）
蔵戸 秀章	みやき町（中原）	森 平一郎	伊万里市
田中 淳	上峰町・吉野ヶ里町（東脊振・三田川）	三ヶ尻 登志彦	有田町（有田・西有田）
杉山 珠巳	神埼市（神埼・千代田）	藤田 浩久	唐津市（浜玉・厳木・相知・北波多・七山）
堤 安信	佐賀市（三瀬・富士・大和）	紫藤 美美	唐津市（唐津）
横尾 昭信	佐賀市（佐賀・諸富・川副・東与賀・久保田）	濱口 尚美	唐津市（呼子・鎮西・肥前）・玄海町
香月 浩	小城市（小城・三日月・牛津・芦刈）	池田 章	鹿島市・太良町
向 喜一郎	多久市	佐々木 忠復	嬉野市（嬉野・塩田）

（4）佐賀県文化財保護指導委員（窯跡担当 任期：平成31年4月1日～令和2年3月31日）

氏名	担当地区	氏名	担当地区
小笠原 博	大川内山	山下 利男	板川内・筒江
本山 義宣	椎ノ峯	山口 増広	内野山・不動山
溝上 良博	提ノ川	藤川 孝司	岸嶽
丸田 延親	黒牟田	吉永 勝	有田（西有田）
古賀 末廣	川古	吉永 登	有田
久保 正敏	弓野	大串 和夫	有田

2　事業の内容

(１)文化財保護体制と文化財普及啓発活動

①佐賀県における文化財保護体制

諸開発に対する文化財保護行政体制の整備、及び普及啓発事業の充実を図るため、文化財保護室では埋蔵文化財・有形文化財・無形文化財・民俗文化財・記念物等について、破壊・滅失・毀損等の防止に努め、市町に対しては、文化財保護行政機構の整備、各市町制定の文化財保護条例に基づく指定の促進を指導しているところである。

下表に示すとおり、市町における文化財専門職員は、令和２年３月現在で10市９町の63名が配置されている。

市町教育委員会文化財専門職員一覧表

市町名称	職員氏名	市町名称	職員氏名	市町名称	職員氏名
佐賀市	谷澤 仁	唐津市	陣内 康光	小城市	古庄 秀樹
	角 信一郎		岩尾 峯希		田久保 佳寛
	楠本 正士		仁田坂 聡		永田 稲男
	西田 巌		美浦 雄二		太田 正和
	中野 充		坂井 清春		本村 浩二
	三代 俊幸		立谷 聡明		前田 佳奈子
	松本 隆昌		鮎川 和樹	嬉野市	輪内 遼
	山口 一郎		築城 昇平	吉野ヶ里町	河野 竜介
	山口 亨		松尾 真理帆		久保 伸洋
	馬場 晶平	鳥栖市	久山 高史	基山町	主税 英徳
	権丈 和徳		湯浅 満暢		坂井 貴志
多久市	高塚 啓介		内野 武史	上峰町	原田 大介
	岩永 雅彦		島 孝寿		伊達 有彩
伊万里市	船井 向洋		大庭 敏男	みやき町	太田 睦
	一本 尚之		岡田 晴菜		久保田 陽香
	藪 遙菜		藤岡 怜史	玄海町	有光 宏之
武雄市	樋渡 拓也	鹿島市	加田 隆志	有田町	村上 伸之
	松瀬 京子	神埼市	桑原 幸則		伊達 惇一朗
	戸田 龍造		谷 洋一郎		宮本 聖子
			佐藤 健一	大町町	岩永 憲二郎
			島 佑輔	江北町	西村 秀昭
			高柳 信敏	白石町	渡部 俊哉

②文化財保護審議会の運営

文化財保護審議会は、知事の諮問に応じ、佐賀県文化財保護条例に規定される事項、その他文化財の保存や活用における重要事項等の調査・審議を行い、その内容を知事に建議した。

1)審議会の開催

令和元年7月29日　第1回文化財保護審議会　令和元年度(平成31年度)文化財保護行政・保護事業に係る説明、県指定文化財の諮問

令和2年3月26日　第2回文化財保護審議会　令和元年度(平成31年度)文化財保護行政・保護事業に係る報告、県指定文化財の審議及び答申

審議会各部会の開催状況一覧表

部会の名称	開催日	審議内容
第1部会	令和元年7月29日	県内の有形文化財(考古資料を除く)及び有形民俗文化財に関する県文化財指定候補の検討・調査・確認等
第2部会	令和元年7月29日	県内の無形文化財及び無形民俗文化財に関する県文化財指定候補の検討・調査・確認等
	令和元年12月20日	
第3部会	令和元年7月29日	県内の史跡、埋蔵文化財及び考古資料に関する県文化財指定候補の検討・調査・確認等
	令和元年11月21日	
第4部会	令和元年7月29日	県内の名勝及び天然記念物に関する県文化財指定候補の検討・調査・確認等
	令和2年1月24日	

審議風景

答申

③文化財パトロールの実施

文化財保護指導委員(文化財全般担当18名、窯跡担当12名、計30名)が県内各地域を分担し、国・県の指定文化財、埋蔵文化財包蔵地に対し定期的な巡視を行い、文化財の滅失・毀損の防止及び早期発見に供するとともに、市町の文化財担当職員等と連携し、地域住民の文化財に対する理解を深めるための普及啓発活動を実施した。また、当該年度の文化財保護事業の概要説明や、委員の文化財保護・普及啓発についての理解の促進、文化財パトロール結果報告、生じた課題とその対策の共有等を目的とした文化財保護指導委員会を4月24日、12月19日の2回に亘り実施した。

④窯跡盗掘対策合同会議の開催

県内に300を越えて所在する窯跡は「肥前古窯跡」の多くを占めている。頻発する盗掘被害に対し、警察・マスコミと連携して情報共有、具体的な対策を講じるとともに、未指定の窯跡に対しては保護処置の対象とするため史跡指定を進め、県及び市町における文化財保護条例を改正し罰則の強化を図ってきた。

本年度は6月20日(木)、有田町生涯学習センターにおいて会議を開催し、盗掘被害の現状と対策について意見交換を行い、有田町の小物成窯跡・天神森窯跡を現地視察した。

会議風景

現地視察の様子

⑤文化財保護強調週間の実施(11月1日～7日)

11月1日～7日は第66回文化財保護強調週間にあたり、期間中には文化財に親しむことを目的とし、県及び各市町において多くの事業が実施されている。県では、佐賀城本丸歴史館において開館15周年特別展「東京をつくった佐賀人たち」が、九州陶磁文化館においては新収蔵品展「今泉吉郎・吉博コレクション」、「特別企画[有田×野老]」展が開催された。

市町においても強調週間の内外において、長崎街道シュガーロードを題材とした展示や各種イベントが嬉野市で実施されたほか、上峰町、白石町等では町民文化祭が、大町町では公民館資料展示室において、収蔵品の特別展示が行われるなど、多種多様な啓発活動が実施されている。

⑥第66回文化財防火デー(令和2年1月26日)

文化財放火デーは、昭和24年1月24日に法隆寺金堂の火災により壁画が焼損したことを契機に制定され、毎年1月26日を中心に文化財を火災から守るための取組みが全国各地において展開されている。

佐賀県においても、佐賀市久保泉町勝宿神社本殿からの出火を想定した火災への対応について、訓練が早朝に実施された。消防本部職員、地元住民や消防団等100名弱の参加があり、火災発見者による通報、初期消火、地元消防団及び消防本部

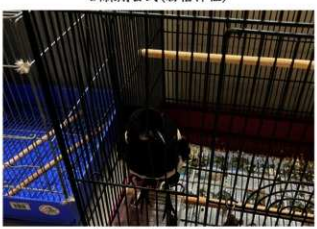
消化放水訓練の様子

による消火活動訓練が迅速に行われ、後世に伝えるべき大切な文化財に対する防火意識向上を図った。

訓練閉会式（勝宿神社）

⑦天然記念物カササギ生息地保護増殖事業

４月～７月初旬にかけて県施設敷地内にプレハブを仮設し、繁殖期において巣から落下したカササギ幼鳥の保護を実施した。本年度の落下した幼鳥数は24羽である。


保護されたカササギ

⑧銃砲刀剣類登録事務

銃砲刀剣類所持等取締法及び佐賀県銃砲刀剣類登録審査委員に関する規則の定めるところにより、登録審査委員３名、登録審査補助員１名を任命し、年間６回、奇数月において審査会を開催した。平成31年度・令和元年度の実績としては、新規登録が64件、登録証再交付が26件、美術刀剣類製作承認が１件であった。

⑨吉野ヶ里遺跡に係る普及啓発活動

１）新北市考古生活フェスティバル2019（台湾　新北市十三行博物館）

台湾の新北市十三行博物館に隣接する遺跡公園で開催された「新北市考古生活フェスティバル2019」に「日本佐賀県吉野ヶ里遺跡」としてブース出展し、来訪者に対して低融合金を用いたミニ有柄銅剣の鋳造体験を実施した。体験は行列ができるほどの大盛況となり、２日間で延べ220個を作成した。本フェスティバルは毎年開催されており、今年度は博物館や大学機関など100以上のテントが出店し、体験活動や物販などが行われたほか、楽器演奏や民族舞踊などのステージイベントが行われた。フェスティバル全体の参加者は２日間で延べ約２万人であり、遺跡のPRに貢献することができた。

鋳造体験の様子

ミニ有柄銅剣

2）弥生ロマン体験事業（県立博物館事業）

吉野ヶ里遺跡展示室を所管する県立博物館では、毎年、県内の小中学生を対象に、吉野ヶ里遺跡展示室及び西側芝生広場（吉野ヶ里歴史公園内）周辺で勾玉づくり、火起こし体験を行う弥生ロマン体験事業を行っている。令和元年度は、県内の小学校63校、中学校１校が参加し、3,427名の児童、生徒が体験学習を行った。

勾玉づくり体験

火起こし体験

3）出張体験ワークショップ（県立博物館事業）

大野城市心のふるさと館から開館１周年記念ワークショップへの参加依頼を受け、県立博物館事業として、吉野ヶ里遺跡出土土器を模したレプリカ土器の復元体験（7月24日）、吉野ヶ里遺跡出土弥生土器を再現した立体土器パズル体験（7月27日）をそれぞれ実施し、吉野ヶ里遺跡のPRを行った。

出張体験ワークショップの様子

弥生土器パズル

4）吉野ヶ里Days In 九博

令和元年８月17日（土）～８月18日（日）の両日、九州国立博物館のイベントブースを借りて吉野ヶ里遺跡に関する出張体験活動を行った。本イベントは平成17年度から毎年継続して実施しているが、令和元年度は吉野ヶ里遺跡の普及活用事業を所管する県立博物館が主催し、国営海の中道海浜公園事務所の職員、吉野ヶ里公園管理センターの職員及びボランティア、県文化課文化財保護室の職員ら30名で運営・実施した。今回は「勾玉づくり体験」、「組紐づくり体験」、「復元青銅器（ミニ銅剣）鋳造体験」、「土器に触れよう体験」を実施し、吉野ヶ里遺跡及び吉野ヶ里歴史公園のPR活動を実施した。

参加者数は2日間で計1,130名であった。

5）吉野ヶ里遺跡報道30周年記念シンポジウム「吉野ヶ里遺跡報道を語る」（県立博物館事業）

令和元（2019）年度は吉野ヶ里遺跡が全国的に報道されて注目を浴びた平成元（1989）年度から30周年という節目の年にあたることから、県立博物館の主催で吉野ヶ里遺跡の報道に関するシンポジウムを2019年8月24日（土）に県立美術館ホールで開催した。

シンポジウムでは、当時の調査主任であった七田忠昭氏（佐賀城本丸歴史館長）が「調査員の視点から見た吉野ヶ里遺跡とマスメディア」と題して基調講演を行った。また、吉野ヶ里遺跡の報道に携わった新聞、テレビ等の報道関係者をパネラーとして招き、当時の取材合戦の裏話や、今後の文化財報道のありかたに関する活発な討論がなされ、多くの聴衆の関心を集めた。参加者数は150名であった。

勾玉作り体験の様子（九州国立博物館ホール）

シンポジウムの様子（県美術館ホール）

6）吉野ヶ里遺跡史跡指定30周年記念特別展「吉野ヶ里遺跡―軌跡と未来―」（県立博物館事業）

吉野ヶ里遺跡が国史跡に指定されて30周年を迎えることを記念して、県立博物館が主催となり、「吉野ヶ里遺跡―軌跡と未来―」というテーマで2020年1月1日～2月16日にかけて特別展を開催した。文化財保護室は県立博物館との兼務職員を中心に展示計画や展示品選定、図録作成、展示設営等について協力を行った。

展示では、吉野ヶ里遺跡周辺での戦前からの貴重な発見例や、工業団地造成計画に伴う大規模な発掘調査、平成元年の吉野ヶ里フィーバー、保存決定後に継続して実施されてきた発掘調査から得られたこれまでの成果を中心に取り上げた。また、調査成果に関する歴代の報道記事をパネル化し、年表形式で吉野ヶ里遺跡の歩みや時代背景について分かりやすく紹介した。期間中の総入場者数は5,434名であった。

特別展の見学風景

7）吉野ヶ里遺跡史跡指定３０周年記念シンポジウム「邪馬台国の今　―弥生時代研究のフロンティア―」（県立博物館事業）
2020年２月８日　参加者250名

シンポジウムの様子（県美術館ホール）

吉野ヶ里遺跡史跡指定30周年記念特別展「吉野ヶ里遺跡―軌跡と未来―」の関連事業として、県立博物館の主催で記念シンポジウム「邪馬台国の今―弥生時代研究のフロンティア―」を2020年2月8日（土）に県立美術館ホールで開催した。シンポジウムでは、近畿地方を代表する拠点的な弥生時代集落である奈良県田原本町の唐古・鍵遺跡の発掘調査を長年主導してきた藤田三郎氏が、「唐古・鍵遺跡からみた邪馬台国」と題して基調講演を行った。続いて、吉野ヶ里遺跡の発掘調査を長年主導してきた七田忠昭氏が「吉野ヶ里遺跡からみた邪馬台国」と題して基調講演を行った。その後、高島忠平氏（公益財団法人佐賀県芸術文化協会理事長）と３名で邪馬台国研究の現状について討論が行われた。参加者は250名であった。

⑩「発掘された佐賀2019 －佐賀県発掘調査成果速報－」展の開催

県内で実施された最新の発掘調査成果について、速報性を以て公開することにより、県民の文化財保護への理解及び関心を高めることを目的とし、平成28年度から佐賀大学（地域学歴史文化研究センター、全学教育機構）と連携し、発掘成果発表会を佐賀大学教養教育大講義室で開催している。今年度は７月14日（土）に開催し、発掘調査成果報告として、平成29年度及び30年度に県内で実施された発掘調査のうち、唐津市の黒岩前田遺跡、唐津城跡、佐賀市の精煉方跡の３本が報告された。また、佐賀大学芸術地域デザイン学部の重藤輝行教授による「肥前地域の初期横穴式石室とその拡散」と題した特別講演、熊本地震の被災派遣職員による報告も行われた。

また、発表会に関連して近年の発掘調査における出土品等の展示公開を７月10日～15日に佐賀大学美術館１階ギャラリーにて実施した。主な展示品は、みやき町大塚遺跡出土の貝製腕輪、鳥栖市岡寺古墳出土埴輪、伊万里市大川内山鍋島藩窯出土陶磁器、古瓶屋下窯跡出土陶器等である。

調査成果発表会

展示公開の様子

⑪市町教育委員会における普及啓発活動

1)「発掘された丁銀」展(唐津市)

平成28年度～29年度にかけて唐津保健福祉事務所の建て替えに伴い行った発掘調査において、江戸時代前期の慶長丁銀が出土した。非常に貴重な発見であったことから、記者発表を行い、唐津市末盧館において展示を実施した。展示期間は令和元年8月20日～9月29日。展示としては、丁銀の他、家紋瓦や焼塩壺など調査地が近世を通じて上級武家の屋敷地であったことを示す資料を展示した。期間内の入場者数は324名であった。
(美浦雄二)

『丁銀』展ギャラリートーク

2)「唐津城と唐津城跡」唐津城跡市史跡指定記念講演会・現地探訪会(唐津市)

唐津市教育員会では、平成31年3月31日に「唐津城跡」が唐津市史跡に指定されたことを記念し、記念講演会と現地探訪会を開催した。午前中の記念講演会では、唐津城跡本丸での石垣修理に関わる山田洋氏(松浦史談会会長)、高瀬哲郎氏(石垣技術研究機構代表)、市調査担当者の3名を講師に迎え、様々な角度から唐津城の姿を浮き彫りにし、その魅力や今後進むべき姿を語って頂いた。午後の現地探訪会では、現況の唐津城跡の状況を再確認しつつ、石垣修理の状況を探訪した。参加人数は156名。
(坂井清春)

記念講演会

現地探訪会

3)国史跡飯洞甕下窯跡発掘調査現地説明会(唐津市)

飯洞甕窯跡は平成27・28年度に窯場遺構の検出を目的とした確認調査を行い、平成29年度より史跡整備に伴う発掘調査を行っている。平成29年度に窯体の再検出、平成30年度に窯体外周の前庭部、令和2年度に窯体外周の後方部のそれぞれ発掘調査を行った。これら過去5年間の調査成果を広く公開するため現地説明会を実施した。

令和元年11月23日(土)午後1時から「第8回 唐津焼の里ウォークin北波多」イベント参加者のウォーキングコースにあわせて開催し、同日、午後2時からは地方公共団体の文化財担当者から専門

的な意見を頂く説明会を実施した。翌24日(日)は一般向けに午前と午後の2回に分けて説明会を行った。2日間あわせての参加人数は102名である。(岩尾峯希)

現地説明会風景

4)令和元年度 旧三菱合資会社唐津支店本館特別公開(唐津市)

佐賀県重要文化財(建造物)である旧三菱合資会社唐津支店本館(唐津市歴史民俗資料館:明治41年(1908)建設)は、石炭の積出で賑わった唐津港の繁栄を現代に伝える貴重な遺産であるとともに、近年はアニメ「ゾンビランドサガ」の聖地としても親しまれている。老朽化のため、例年数日間のみ特別公開を行っているが、令和元年度はアニメのイベントに合わせ、7月26～28日、8月18日、9月15日、10月20日の計6日間の特別公開を行った。参加人数は、6日間で計2,419名。(岩尾峯希)

現地探訪会(1)

現地探訪会(2)

5)「戦時中の大発見－桜馬場遺跡のナゾを探る－」展(唐津市)

【展示会場】唐津市末盧館

【展示期間】令和元年10月8日～12月8日

昭和19年の防空壕の掘削時に発見された桜馬場遺跡の王墓は、平成19年に再発見され、世間の注目を集めた。しかしながら、甕棺の破片とともに防空壕に埋まっていた近現代以降の遺物についてはこれまで取り上げられて来なかった。そのため、企画展では弥生時代の副葬品と防空壕跡出土遺物を再整理し、唐津に残された貴重な戦時期の資料紹介を行った。期間内の入場者数は354人であり、展示解説には20人の参加があった。

(立谷聡明)

展示解説風景

6)牟田辺前方後円墳発掘調査速報展(多久市)

多久市郷土史・歴史民俗・先覚者資料館では2019年特別企画として「牟田辺前方後円墳発掘調査速報展」を開催した。会期は、令和元年8月1日～9月1日である。

多久市教育委員会が平成29年度～30年度にかけて行った牟田辺遺跡発掘調査のなかで前方後円墳(牟田辺9号墳)の調査成果を、遺物と模型を併用した方法で展示紹介する内容とした。展示遺物は獅噛文帯金具・三環鈴・鈴杏葉・馬具・鉄鏃・須恵器・玉類を主体に墳丘が13世紀から近代にかけて、埋蔵施設して二次利用された様相を示す遺物も補足的に展示した。模型は墳丘・轡等の復元したものを使用し、展示内容の理解が深まるように配慮した。(岩永雅彦)

展示入口掲示

展示近景

7）日峯社下窯跡発掘調査現地説明会(伊万里市)

日峯社下窯跡の発掘調査では、その成果について周知するための現地説明会を行った。令和２年２月８、９日に佐賀県立九州陶磁文化館で開催された近世陶磁研究会の参加者を対象とした現地説明会を10日に開催し、12名の参加があった。

３月には地元や窯元関係者、さらに一般や地方公共団体の文化財担当者を対象とした現地説明会を開催する予定であったが、新型コロナの感染拡大を防ぐため中止となった。(船井向洋)

現地説明会風景

8）椎ノ峰窯跡群保存活用に関する地元説明会(伊万里市)

南波多町府招上地区には椎ノ峰窯跡群(江戸時代)及び窯業関連の文化財が所在している。地元から、この貴重な文化財の保存を進め、さらに地域活性の資源として活用したいとの申し出があり、都内の大学と協働して、保護活動についての地元説明会を２月12日に開催し46名の参加があった。

説明会では、大学が試験的に行った椎ノ峰窯跡の三次元計測の成果としてVRコンテンツの体験が行われ、また、他県の窯跡保護活動の事例紹介などが行われた。(船井向洋)

VRコンテンツの体験

事例紹介

9)「かけらで再発見」展　武雄市図書館・歴史資料館企画展
やきものワークショップ(武雄市)

平成29年度から補助金を受けて「市内出土遺物再整理事業」(以下、再整理事業)に取り組んでいる。過去に発掘調査を行った際に出土した遺物約1500箱を再整理して活用できるようにすることを目的としており、これまで700箱の再整理が完了している。出土遺物の大部分は窯跡発掘調査等による陶磁器片である。資料を再整理した結果、新たな発見につながっており、調査研究でも成果が上がっている。

企画展示(1)

活用の面でも陶磁器片が主体ということで、市内窯元の技術向上を目的に再整理した遺物の見学会を窯元と研究者で行った結果、新たに武雄系唐津の技法に取り組む窯元も出て来ている。他には出前講座や体験講座での活用、学校教育で活用するための貸出しセットの作成、企画展示や博物館、美術館への資料貸出し等の活用を行っている。

企画展示(2)

今回は上記の活用の中から、補助金を活用して実施したやきものワークショップと企画展「かけらで再発見」について紹介する。

企画展示ギャラリートーク(1)

やきものワークショップは、平成30年度から取り組んでおり、市内の小学4年生～小学6年生を対象に定員20名で募集をかけている。講師は、上記の見学会に参加している窯元と市職員で行っている。ワークショップの内容は大きく2つに分かれており、①市職員が再整理資料を使って武雄のやきものの歴史や技法について解説をし、実際に陶片等を子どもたちに触らせて体感させる。②窯元は再整理資料を使って解説しながら技法を実演して見せる。その上で、再整理資料を見本にして、子ども達が武雄系唐津の技法を使って器を作る。というものである。

企画展示ギャラリートーク(2)

令和元年度は、12月7日(土)午前10時から20名の参加で実施した。最初に参加者へ250gの粘土2個を配布し、手びねりで器を作った。そして作品を乾燥させている間に櫛などの道具を作り、昼休み後に再整理資料を使って武雄のやきものの

再整理資料を使った解説

再整理資料を参考とした製作技法体験

参加者作成の刷毛目皿

解説を行った。子どもたちには実際に陶片に触れさせ、白化粧土を使ったどの技法に取り組むかを考えさせた。その後、窯元が再整理資料を例に実演をしてみせ、子ども達は刷毛目・櫛目・指なで等の技法を体験した。焼成については時間がかかることから、武雄市の陶芸サークルに協力していただき、別の日に電気窯で焼いた後に参加者へ渡した。陶片を見て・触れて・話を聞いて・体験することにより、子ども達も埋蔵文化財に興味を持ったようであった。

企画展「かけらで再発見」は、令和２年３月７日～３月31日にかけて、武雄市図書館・歴史資料館で実施した。再整理事業の成果を活かして、埋蔵文化財の保護に理解を得るとともに、再整理により新しく発見された武雄のやきものの歴史を市民に知ってもらうことを目的に開催した。コロナの影響もあったが、3,713名の見学者があった。この企画展では、平成29年度～30年度に再整理をした結果、新たな発見があった６つの窯跡の陶片を中心に展示を行った。再整理事業には、県文化財保護室OB数名に協力をしていただいており、この企画展でも助言やギャラリートーク等の役割を受けていただいた。

資料を正しく保管していれば、再検討をすることによって見逃していた真実を見つけることができるということを今回の企画展では示すことが出来たのではないかと考えている。（樋渡拓也）

10）おつぼ山神籠石ウォーキング（武雄市）

武雄市教育委員会の主催で、令和元年12月14日（土）に橘公民館及び国史跡のおつぼ山神籠石にて「おつぼ山神籠石ウォーキング」を行った。

平成30年度から取り組んでいる「おつぼ山神籠石保存整備事業」に伴い、おつぼ山神籠石の価値と保存整備事業の内容を広く周知することを目的に開催し、県内外から90名の参加があった。

イベントの前半は橘公民館でパワーポイントを使った講座を行い、おつぼ山神籠石の歴史的な価

講座風景

値や整備に至るまでの経緯や整備内容について説明を行った。後半は史跡地内をウォーキングし、第一水門や東門などの遺構やおつぼ山神籠石の大きさを体感してもらいながら、現地で史跡や遺構の解説や整備内容についてイメージ図を使い、説明を行った。

講座とウォーキングに分けて行った理由としては、史跡地を歩くことが困難な人達も含め、出来るだけ多くの人におつぼ山神籠石の価値と整備の意義を広く周知したかったためである。また、参加者からは講座で予習をしたおかげで、現地の解説も分かり易く、興味を持って水門や列石などの遺構を見ることができたと好評であった。

また、このイベントは、佐賀県健康増進課が行っている佐賀県公式ウォーキングアプリ「SAGATOKO」に登録して行った。文化財に興味がある人だけではなく、多くの人達に参加してもらえるように、様々な部署と連携できればと考えている。

今後は、史跡の価値や整備事業の内容だけではなく、どのようにして史跡整備が行われるのかを広く知ってもらうために、保存整備工事の公開もウォーキングイベントに含めていきたいと考えている。（樋渡拓也）

現地解説（第一水門）

現地解説（東門）

11）おぎを掘るⅩⅢ －生立ヶ里遺跡と木製品の世界－」展（小城市）

小城市ではこれまでの発掘調査の成果を公開するために「おぎを掘る」と題して発掘調査成果展を開催している。

令和元年9月7日（土）～ 10月20日（日）にかけて行った。令和元年度の成果展では弥生時代の木製品に焦点を当て、平成2・3年に牛津町の生立ヶ里遺跡で出土した多種多様な出土木製品を中心に公開した。資料展示は、出土木製品を大きく「祭祀」、「生活」、「建築」、「農耕」、「その他」の5つにテーマに分け、多様性や製作技術の高さを間近で感じてもらい、地域の歴史の関心を持ってもらう機会とした。

展示風景

その他にも平成30年度に実施した確認・試掘調査の出土遺物や、過去の調査で出土した金属器等に保存処理を実施した成果品の展示もあわせて行った。（太田正和）

12)土生遺跡公園まつり2019(小城市)

小城市教育委員会では、土生遺跡発見40周年を機に小学生とその保護者を対象に年1回、史跡土生遺跡公園で「土生遺跡公園まつり」を開催している。まつりのスタッフは、小城市民学芸員や地元の陶芸家、学校給食調理員、文化課職員で構成され、参加した子ども達とコミュニケーションを図りながら土生遺跡を解説し、「土器づくり」や「火おこし体験」等の説明や指導を行っている。

土偶・勾玉つくり

9回目となる令和元年度は10月19日に開催し、小城市内外から50名が参加した。雨天のため小城文化センターに会場を移し「土偶・勾玉つくり」、「火おこし体験」、「古代食体験」、「鋳込み実演」などを実施した。

土生遺跡の南側に位置する石木中高遺跡からは、弥生時代前期の土偶の下半身が出土していることにちなみ、上半身を想像しながら思い思いに模様付けを行った。できあがった土偶や土製勾玉は陶芸家が焼成し、11月下旬から12月下旬にかけて小城市立歴史資料館で展示を行った。

土偶・勾玉展示会

「古代食体験」では猪肉を用いた「猪汁」や「骨付き焼肉」などを提供した。学校給食調理員が別施設で調理し、会場で参加者へふるまったが好評ですぐに完食となった。

土生遺跡公園まつりは、体験型イベントを通して土生遺跡の重要性を子ども達に伝える機会にもなっている。(太田正和)

火おこし体験

青銅器(複製)見学

13)「よみがえるレトロモダン」展 旧田代家西洋館国重要文化財指定記念特別展(有田町)

有田内山伝統的建造物群保存地区内に所在する旧田代家西洋館は、有田を代表する貿易商の田代紋左衛門の子助作が外国人の接待や宿泊のために明治9年(1876)に建築した擬洋風の建築物で、明治初頭の有田の繁栄を今に伝えている。昭和52年3月11日に、「有田異人館」として佐賀県重要文化財に指定されてきたが、平成30年12月25日に「旧田代家西洋館」として国の重要文化財に指定された。

これを記念して、特別展「よみがえるレトロモダン」を平成31年4月27日～令和元年5月12日まで開催した。

展示の様子

復元され、建築当時の姿によみがえった旧田代家西洋館を会場に、西洋館を象徴する「明治」「輸出」「和洋折衷」「海外」をテーマにして、現代のやきものを使ってテーブルコーディネートを行うことで、明治の建物の中で、現代と融合したレトロでモダンな雰囲気を演出し、その空間を楽しめるようにした。

開催初日は、記念セレモニーとしてテープカットや、学芸員による展示解説を行った。ゴールデンウィーク、有田陶器市と重なったこともあり、2,000人を超える方々にご来館いただいた。さらに、旧田代家西洋館国重要文化財指定に併せて、近接する伝統的建造物で、西洋館とかかわりの深い、有田陶磁美術館の常設展を一新し、明治の建物の中で明治を中心とした有田の近代を物語るやきものを展示することで、西洋館と美術館を連動させた。(伊達惇一朗)

(2)開発事業と文化財保護の調整

令和元年度(平成31年度)に文化財保護室が実施した埋蔵文化財の本発掘調査は0件であった。ただし、西九州自動車道、有明海沿岸道路の建設をはじめとした広域に亘る公共事業においては、試掘・確認調査の実施及び事業進捗に伴う調整は継続して行っており、その結果として本年度は記録保存を必要とする箇所がなかったことによる。その他の開発に伴う発掘調査については、市町教育委員会が調査主体となり実施した。

広域の農業基盤整備事業については、佐賀中部農林事務所所管の佐賀市高木瀬地区ほ場整備事業に係る調整及び確認調査を行い、一部で遺構が検出され、本調査を令和2年度に実施することとなった。また、県土整備部・地域交流部及び農林水産部の令和2年度所管事業について、各部事業所管課、各土木事務所、各農林事務所、関係する市町教育委員会文化財保護部局が連携し調整会議を開催した。

さらに国土交通省及び農林水産省の令和2年度所管事業についても、佐賀国道事務所、武雄河川事務所、筑後川河川事務所、筑後川下流右岸農地防災事務所、佐賀森林管理署の協力のもと、調整会議を開催して文化財保護と開発計画との調整を行った。

(3)文化財の調査(埋蔵文化財発掘調査)

令和元年度(平成31年度)における開発に伴い提出された届出等の総数は1401件である。その内訳及び詳細を下表に示す。また、出土文化財の認定については、58件であった。

①開発事業別発掘届及び調査件数

区　分	法93・94条の件数	法92・99条の件数	計
道路	42	2	44
鉄道	0	0	0
空港	0	0	0
河川改修	18	1	19
港湾整備	0	0	0
ダム建設	2	0	2
学校	37	0	37
集合住宅	55	0	55
個人住宅	735	11	746
工場	6	1	7
店舗	13	0	13
その他建物	104	1	105
宅地造成	77	3	80
土地区画整理	0	0	0
公園造成	4	0	4
ゴルフ場造成	0	0	0
観光開発	0	0	0
ガス・電気・水道	113	0	113
農林業基盤整備	0	0	0
農業関係	95	3	98
土砂採取	0	0	0
その他開発	100	3	103
小　計	1,401	25	1,426
自然崩壊	0	0	0
保存目的	0	0	0
学術調査	0	1	1
遺跡整備	0	0	0
小　計	0	1	1
合　計	1,401	26	1,427

②文書別件数

区　分		件　数
発見届	法96条	0
	法97条	0
	合　計	0
区　分		件数
発掘届	法92条	0
	法93条	1,111
	法94条	290
	法99条	26
	合　計	1,427

③埋蔵文化財包蔵地周知化の経緯

区　分		件数
埋蔵文化財包蔵地周知化	工事中	0
	開発予定地の現地踏査	0
	開発予定地内の試掘・確認調査	1
	その他	0
	合　計	1

④工事・調査の指示・勧告の内容別・主体別件数

区　分			件数
工事に係る届出等 法93・94条	指示勧告の内容	現状保存	0
		確認調査	420
		(うち一部保存件数)	0
		工事立会	167
		慎重工事	778
		その他 注　意	19
		その他 調整中	0
調査の届出等	法92条	工　事	0
		学　術	0
	法99条	工　事	25
		学　術	1
合　計			1,410

⑤出土文化財の認定件数

出土文化財の認定件数	58

⑥出土遺物の量(コンテナ換算)

平成30年度までの累計(箱)	201,877
平成31年度・令和元年度の増加分(箱)	1,503
合　計(箱)	203,380

下表は、令和元年度(平成31年度)に実施した主な本発掘調査の一覧である。各種開発事業に対し文化財保護担当部局が試掘・確認調査を実施した結果、本発掘調査による記録保存が必要と判断したもののほか、史跡等重要遺跡の保存を目的として実施した学術調査についても併せて掲載する。

所載遺跡一覧表

調査主体	番号	遺跡名称	調査区等	調査の原因	遺跡の内容
佐賀県	1	特別史跡 名護屋城跡並陣跡[唐津市]	弾正丸東下	史跡内容確認	文禄・慶長の役の際に築かれた城跡
	2	特別史跡 名護屋城跡並陣跡[唐津市]	島津義弘陣跡	史跡内容確認	文禄・慶長の役の際に築かれた城跡
	3	特別史跡 名護屋城跡並陣跡[唐津市]	水手水路	史跡内容確認	文禄・慶長の役の際に築かれた城跡
佐賀市	4	増田遺跡	16区	農業基盤整備事業	弥生時代の集落跡・墓域
	5	岡裏遺跡	11区	個人住宅建設	弥生時代の集落跡
	6	七ヶ瀬遺跡	2区	県営産業用地事業	弥生時代の墓域
	7	陣ノ森遺跡	1・2区	農業基盤整備事業	弥生時代の集落跡
	8	惣座遺跡	7区	久池井地区築堤	弥生時代の集落跡
	9	鍋島本村遺跡	4区	農業基盤整備事業	弥生時代～中世の集落跡
	10	村徳永遺跡	29区	個人住宅建設	弥生時代の集落跡
	11	榎木遺跡	8区	個人住宅建設	古墳時代・近世の集落跡
	12	印鑰遺跡	3区	個人住宅建設	中世の集落跡
	13	思案橋遺跡		内容未定の開発	江戸時代の荷揚げ場跡
	14	三重津海軍所跡		重要遺跡確認調査	近世後半の佐賀藩海軍施設等
	15	精煉方跡	2区	重要遺跡確認調査	近世～近代の生産遺跡
唐津市	16	宇木汲田遺跡		重要遺跡範囲確認調査	弥生時代の集落跡・墳墓
	17	唐津城跡		唐津城石垣再築整備事業	近世城館跡
	18	飯洞甕窯跡		保存整備	近世初頭の窯跡
鳥栖市	19	古賀遺跡	3区	宅地造成	弥生時代～古墳時代の集落跡
	20	本原遺跡	4区	道路拡幅	弥生時代～平安時代の集落跡
	21	門戸口遺跡		市役所新庁舎建設	古墳時代・奈良時代の集落跡
伊万里市	22	日峯社下窯跡		史跡整備(内容確認)	江戸時代の窯跡
	23	鍋原窯跡		広域ごみ処理施設建設	近世～近代の窯跡
みやき町	24	一の幡古墳群		戸建て賃貸住宅建設	古墳時代前期～中期の集落跡
	25	姫方原遺跡	H区	宅地造成	古代の集落跡
	26	板部城跡		町道建設	弥生時代及び古代の集落跡、中世の館跡？
上峰町	27	三上遺跡	9区	建売分譲住宅建設	古墳時代～奈良時代の集落跡
吉野ヶ里町	28	西前田遺跡	7区	個人住宅建設	弥生時代～古墳時代・中世の集落跡

1　弾正丸東下(特別史跡　名護屋城跡並陣跡)

【所在地】唐津市鎮西町名護屋　【遺跡の時代と種類】文禄・慶長の役(壬辰・丁酉倭乱：1592～1598)の際の城郭跡　【調査の原因】史跡内容確認　【調査面積】120㎡

【調査主体】佐賀県立名護屋城博物館　【事業期間】平成31年4月1日～令和2年3月31日

【調査概要】

名護屋城跡弾正丸東下の発掘調査は、特別史跡「名護屋城跡並陣跡」の保存整備計画に基づき、将来的な保存・整備事業に備えて基本資料を得る目的で実施した。

調査は、弾正丸の石垣裾を巡る帯曲輪とその下に広がる岩盤が露頭する平地部で行った。

調査の結果、弾正丸東面石垣の裾部では、根石と小礫を用いた根固めの状況が検出され、帯曲輪は玉石敷や法面における石垣構築がなされていない、地山を削り出してつくられていることを確認した。また、さらに東側の岩盤が露頭する地点では、一部の岩盤に矢穴が確認でき、周辺に矢穴が残る石材が点在していることなどから、石採場の跡であることが判明した。(大橋正浩)

弾正丸東面の根石と根固めの状況

名護屋城跡弾正丸東下石採場跡調査状況

2　島津義弘陣跡(特別史跡 名護屋城跡並陣跡)

【所在地】唐津市鎮西町名護屋　【遺跡の時代と種類】文禄・慶長の役(壬申・丁酉倭乱：1592～1598)の際の城郭跡　【調査の原因】史跡内容確認　【調査面積】160㎡

【調査主体】佐賀県立名護屋城博物館　【事業期間】平成31年4月1日～令和2年3月31日

【調査概要】

島津義弘陣跡は、名護屋城跡から約2.5km北西に位置する標高20.9mの丘陵上に比定されている。陣跡の中心部である丘陵の最高所には、最も規模が大きい50m四方の主郭と推定される曲輪が配され、その東西には小規模な曲輪群が展開している。

令和元年度は、平成28年度から引き続き実施している主郭部南面石垣を中心に、西側及び東側曲輪群について基礎的な情報を得るための発掘調査を実施した。

調査の結果、過年度に主郭部南面石垣中央で確認されていた墨線の折れの東側で、石垣の前面に高さ約1mの犬走り状の段が確認され、石垣が2段に構築されていることが判明した。また、主郭部南面石垣の東端で、主郭を囲繞する石垣の南東隅角の根石を確認した。主郭部南東隅部は、鏡石状の石材が多く用いられており、南面石垣の墨線よりもやや南に張り出していること等から、櫓台の存在が

推定される。次に東西曲輪群の調査では、西側曲輪群で20m四方の小規模な曲輪群を連絡する役割をもつと考えられる石段の一部が検出された。また、東側曲輪群では、石塁の基底部や裏栗石が検出されたが、現代における耕地化等の影響で地表面が削平されており判然としない。(松浦由佳)

主郭部南面石垣発掘調査状況

主郭部南東隅角発掘調査状況

3　水手通路(特別史跡 名護屋城跡 並 陣跡)

【所在地】唐津市鎮西町名護屋　【遺跡の時代と種類】文禄・慶長の役(壬辰・丁酉倭乱：1592～1598)の際の城郭跡　【調査の原因】史跡内容確認　【調査面積】40㎡

【事業主体】佐賀県立名護屋城博物館　【事業期間】平成31年4月1日～令和2年3月31日

【調査概要】

名護屋城跡水手通路では、平成25年度から継続的に、将来的な修景整備の基礎資料を得るための発掘調査を実施している。令和元年度は、昨年度に引き続き、名護屋城跡北側で水手口(標高約58m)に隣接する水手通路櫓台前面及び水手曲輪北東面下に設定した調査区の補足調査を実施した。

調査の結果、水手通路櫓台前面では、厚く堆積した造成土下から櫓台及び周辺石垣の破却に伴って崩落した栗石層、瓦層を検出し、瓦層下からは当該期の通路面の可能性のある玉石敷きを検出した。また、水手通路北東面石垣の背面から裏栗石層と裏栗巻石の一部を確認した。水手曲輪北東面下では、前年に引き続き、破却に伴うと推測される厚い瓦層及び当該期の通路面と考えられる玉石敷きを検出した。(堤英明)

水手通路(櫓台前面)調査状況

水手通路(水手曲輪北東面下)調査状況

4　増田遺跡16区

【所在地】佐賀市鍋島町大字鍋島　【遺跡の時代と種類】弥生時代の集落跡・墓域
【調査の原因】農業基盤整備事業　【調査面積】1,200㎡　【調査主体】佐賀市教育委員会
【調査期間】令和元年7月16日～令和2年1月15日

三連棺検出状況(北から)

【調査概要】

増田遺跡は、佐賀市鍋島町の嘉瀬川左岸に位置し、標高6m前後の洪積台地の南端部に立地する。周辺調査では、増田遺跡群(増田遺跡・津留遺跡)の調査で、弥生時代中期の甕棺墓群を中心とした墓域が確認されている。

今回の調査地は、平成9～11年に調査が行われた増田遺跡5区(甕棺墓342基、木棺墓49基)の東側に隣接する。調査では、現地表面下0.5～0.9mの深さで弥生時代中期を中心とした甕棺墓15基、土坑、溝、小穴を確認した。これらの遺構は、調査区の北端及び西端に集中しており、東側は落ち込んだ地形となっており遺構密度が低くなる。

平成30年度は5区の西側である増田遺跡14区(甕棺墓9基等)を調査し、増田遺跡5区から続く墓域の西端を確認し、今回の調査では墓域の東端域を検出した。墓域東端部は標高が低く、遺構検出面も軟質な地山面に、小児棺や多連棺など、通常の二連成人棺とは異なった埋葬形態の遺構が展開する傾向が窺え、当時の葬送観念や社会の階層差を考える上で興味深い資料となった。(馬場晶平)

5　岡裏遺跡11区

【所在地】佐賀市大和町大字尼寺　【遺跡の時代と種類】弥生時代の集落跡　【調査の原因】個人住宅建設
【調査面積】56.2㎡　【調査主体】佐賀市教育委員会　【調査期間】令和元年8月21日～9月18日

調査区全景(南東から)

【調査概要】

弥生時代後期の集落や墓地(惣座遺跡)、古代の官衙遺跡(肥前国庁跡)が位置する東側の標高11m前後の沖積地に立地している。調査区の大半は旧河川跡にあたっているが、北側から南西には小河川が接しており、元々大きな河川であったと考えられる。南側からは弥生時代の土器が廃棄された土坑や小穴が検出された。旧河川跡からも弥生時代の土器が多く出土したが、少量平安時代の土器も含んでおり最終的な埋没時期は平安時代と考えられる。これまでの周辺部の調査からも、弥生時代後期を中心とする集落跡が発見されており、今回の調査地も集落の一部と考えられる。(松本隆昌)

6　七ヶ瀬遺跡２区

【所在地】佐賀市大和町大字川上　【遺跡の時代と種類】弥生時代の墓域
【調査の原因】県営産業用地事業　【調査面積】1,000㎡　【調査主体】佐賀市教育委員会
【調査期間】令和元年８月16日～令和２年３月13日

【調査概要】

今年度の調査は、工事予定範囲の7,000㎡の内、東端1,000㎡について行った。現地表から約0.5～0.7m下で遺構を確認した。標高は12.3mを測る。

検出した遺構は甕棺墓29基、石棺墓２基、土壙墓10基、土坑、溝、小穴等で、概ね弥生時代後期の所産である。七ヶ瀬遺跡２区は、昭和55年度に発掘調査が行われた七ヶ瀬遺跡１区（甕棺墓41基、石棺墓３基、土壙墓２基、土坑、溝等）の北東側に隣接する、同１区の調査区西南側では密に墓域の広がりを確認したものの、東側は旧地形がなだらかに落ち込み、遺跡は形成されていなかった。その他の遺構としては、調査区南西側で弥生時代の祭祀土坑群を検出した。

調査区全景（俯瞰：上が北）

44号甕棺墓

埋葬遺構の大半を占める甕棺墓は、成人用の棺体を主体とする。埋葬形態は、埋置した下甕に甕、石、木で蓋をするものであった。３号甕棺墓内部には頭蓋骨、背骨、腰骨、大腿骨の一部が残存していた。遺存状況から膝を抱えた状態で埋葬されたとみられる。土坑群からは、朱塗りの祭祀土器の他に、当時は貴重な鉄製の斧が８点出土しており、より強く死者を弔う性格を持つもの遺構と推察される。今回の調査結果から、七ヶ瀬遺跡１区から連続する墓域の東端域が明らかとなっただけでなく、墓域と祭祀域がまとまって確認され、当時の葬送概念や土地利用の変遷を考える上でも貴重な資料となった。（権丈和徳）

7　陣ノ森遺跡１・２区

【所在地】佐賀市鍋島町大字鍋島　【遺跡の時代と種類】弥生時代の集落跡
【調査の原因】農業基盤整備事業　【調査面積】400㎡　【調査主体】佐賀市教育委員会
【調査期間】令和元年10月21日～令和２年３月２日

１区全景(西から)

【調査概要】

陣ノ森遺跡は、佐賀市鍋島町の嘉瀬川左岸に位置し、標高６ｍ前後の洪積台地の南端部に立地する。調査地の南側には鍋島家発祥の地として伝えられる「御館の森」がある。周辺の発掘調査では、遺跡の東側に隣接する増田遺跡11区の調査で、弥生時代中期の集落域が確認されている。今回の調査は、現地表面下0.4 ～ 0.8ｍの深さで遺構を確認した。

遺構は、調査区の全体に密に展開する。遺跡の北西側は嘉瀬川が流れており、２区南端部では表土直下より砂が厚く堆積していたことから、後世の河川氾濫等により遺構が消失しているものとみられる。検出した遺構は、土坑、溝、井戸、小穴で、年代は弥生時代前期から中世にかけてのもので、遺構の大半は弥生時代中期が占める。調査区の制約上、全容を明らかにすることはできなかったものの、小穴等は、建物の一部である可能性が高く、増田遺跡11区から続く集落の一端であると推測される。(馬場晶平)

8　惣座遺跡７区

【所在地】佐賀県佐賀市大和町大字久池井　【遺跡の時代と種類】弥生時代の集落跡
【調査の原因】久池井地区築堤外工事に伴う発掘調査　【調査主体】佐賀市教育委員会
【調査面積】81㎡　【調査期間】令和元年11月28日～ 12月11日

７区全景(南から)

【調査概要】

惣座遺跡は、大和町久池井に位置し、標高16ｍ前後の嘉瀬川左岸の河岸段丘上に立地する。周辺には弥生時代の集落や墓地と奈良～平安時代の肥前国庁跡とその関連遺跡が近接する。現在の嘉瀬川に沿った調査区で、前年度に調査した６区の北約90mに位置する。６区では弥生時代の甕棺墓、近世以降の農業関連の流路などが検出されているが、６～７区の間は嘉瀬川の氾濫源にあたり、遺構は検出されていない。７区も調査区の北側と南側は大きく嘉瀬川の旧河川の氾濫で遺構は消滅していたが、土坑１基と小穴が検出され、弥生土器の細片を出土した。周辺では長崎自動車道や東側のバイパス工事に伴う調査で大規模な弥生時代後期の集落が確認されているが、嘉瀬川左岸区域での遺構の拡がりが確認できた。(松本隆昌)

9　鍋島本村遺跡４区（なべしまほんそん）

【所在地】佐賀市鍋島町大字鍋島　【遺跡の時代と種類】弥生時代～中世の集落跡
【調査の原因】農業基盤整備事業　【調査面積】520㎡　【調査主体】佐賀市教育委員会
【調査期間】令和元年10月28日～令和２年３月２日

【調査概要】

鍋島本村遺跡は、佐賀市鍋島町の嘉瀬川左岸に位置し、標高６ｍ前後の洪積台地の南端部に立地する。周辺の発掘調査では、鍋島本村南遺跡が挙げられる。平成元年度に今回調査地の南側約300ｍの地点で調査が行われ、大陸文化と関わりの深い銅剣、銅戈鋳型、擬朝鮮系無文土器等が出土しており、佐賀市西部域の核的な集落が確認されている。今回の調査では、現地表面下0.5 ～ 0.8ｍの深さで遺構を確認した。遺構は調査区の全体に密に展開する。遺跡の西側は嘉瀬川が流れており、調査区西側の一部では表土直下より砂が厚く堆積していたことから、後世の河川氾濫等により遺構が消失しているものとみられる。検出した遺構は、土坑、溝、井戸、小穴で、弥生時代前期から中世にかけてのもので、遺構の大半は弥生時代中期が占める。今回の調査においても、擬朝鮮系無文土器が出土した他、調査区東側では弥生時代前期の幅2.2 ～ 2.3ｍ、深さ1.5ｍの断面V字の溝を検出した。集落を区画するために掘削されたものと推察され、鍋島本村南遺跡から続く集落の一端と考えられる。（馬場晶平）

１区全景（西から）

10　村徳永遺跡29区（むらとくなが）

【所在地】佐賀市久保泉大字上和泉　【遺跡の時代と種類】弥生時代の集落跡
【調査の原因】個人住宅建設　【調査面積】77㎡　【調査主体】佐賀市教育委員会
【調査期間】令和２年１月30日～２月３日

【調査概要】

巨勢川左岸で標高8.0m程の扇状地状に立地する。西約100mにある中学校建設の際には弥生時代から近世にかけての集落跡が発見されている。今回の調査区では、現地表面から約0.8mの深さで弥生時代の掘立柱建物跡１棟、土坑２基、小穴等を検出した。掘立柱建物跡の柱穴からは円形の木柱片が出土し、さらに柱穴は約３ｍ間隔で四方に並んでいる。掘立柱建物跡を検出したことで集落の広がりを確認できた。中学校建設時の調査の部分に比べると遺構密度が次第に低くなっていることから、集落の中でも縁辺端にあたるのではないかと考えられる。（山口亨）

調査区全景（南から）

11　榎木(えのき)遺跡8区

【所在地】佐賀市大和町大字東山田　【遺跡の時代と種類】古墳時代・近世の集落跡
【調査の原因】個人住宅建設　【調査面積】52.17㎡　【調査主体】佐賀市教育委員会
【調査期間】令和2年3月13日～3月26日

調査区全景(西から)

【調査概要】

嘉瀬川右岸で標高12m程の洪積段丘上に立地する。西約100mにある小学校建設の際に、弥生時代から古墳時代にかけての集落跡や古代の集落跡が発見されている。北50mの地点を東西に走る里道は古代官道に推定されている。

今回の調査区では、現地表面下0.6mで古墳時代と江戸時代の生活面を確認し、土坑2基、溝3条のほか多数の小穴を検出した。これら小穴の中には掘立柱建物跡に伴うものも含まれている。

西隣の住宅建設の際に実施した調査では小型の土壙墓が発見され、当区画を含む宅地造成工事に伴う確認調査では北隣の区画において奈良時代の掘立柱建物が検出されていて、この一帯には古墳時代から奈良時代にかけて主要な遺構の展開がみられるということが分かった。(山口亨、福嶋力也)

12　印鑰(いんにゃく)遺跡3区

【所在地】佐賀市大和町大字尼寺　【遺跡の時代と種類】中世の集落跡　【調査の原因】個人住宅建設
【調査面積】93.25㎡　【調査主体】佐賀市教育委員会　【調査期間】令和元年10月15日～10月31日

調査区全景(西から)

【調査概要】

標高11m前後の沖積地に立地し、地名が示すとおり奈良時代に創建された国分尼寺の推定寺域に接している。表土から遺構面まで浅く、以前あった家屋の基礎等の攪乱を受けていたが、鎌倉時代の土坑4基や溝1条、小穴多数が検出された。

出土遺物には土師器皿や瓦器椀、中国産の貿易陶磁などがある。過去の調査から国分寺や国分尼寺の周辺には一般的な集落はなく、ある程度の規制があったものと考えられている。平安時代後期になると両寺院とも官寺としての勢力が衰退して、在地領主級の勢力が強くなるが、鎌倉時代には一層顕著になり、寺域内外には多くの生活遺構が点在する。今回、発見された遺構も鎌倉時代のものが中心で、その出土遺物には中国産の古い白磁碗も含まれており、ある程度の勢力をもった武士階級の屋敷地の一部であった可能性が考えられる。(松本隆昌)

13　思案橋遺跡

【所在地】佐賀県佐賀市柳町　【遺跡の時代と種類】江戸時代の荷揚げ場跡
【調査の原因】内容未定の開発に伴う確認調査　【調査主体】佐賀市教育委員会　【調査面積】30㎡
【調査期間】平成31年2月13日～令和元年5月31日
【調査概要】

佐賀城下の長崎街道と紺屋川が交錯する思案橋のたもとに位置する。江戸から明治期には商家が建ち並び、城下でも最も栄えていた地域の一つで、紺屋川を介して物資の運搬が盛んに行われていたとされる。

調査では、石垣護岸、雁木、礎石等を検出した。石垣護岸は現在の護岸から西へ2ｍ程の位置で検出し、江戸期中頃から後期にかけてのものと幕末から明治期に構築されたものの二時期を確認した。雁木は長さ1.8mを測る羊石の切石造り12段で、蹴上げが浅く、川側にやや傾斜して据えられている。最上段の石には扉の痕跡を確認しており、土蔵等の建物と直結していたと考えられる。建物の規模等は確定できていないが、一定の規格をもって整然と配された礎石（一部で2ｍ間隔）を確認した。今回の調査によって紺屋川の時代変遷を知ることができ、雁木は思案橋界隈が商人町として最も栄え、紺屋川を介した物資の運搬が行われていた名残として、地域の歴史を物語る貴重な遺構であることから6月29日に現地説明会を実施し、調査の成果を公開した。参加人数160名。（角信一郎）

雁木及び石垣護岸（南東から）

現地説明会

14　三重津海軍所跡

【所在地】佐賀市川副町大字早津江字元海軍所ほか　【遺跡の時代と種類】近世後半の佐賀藩海軍施設等
【調査の原因】重要遺跡確認調査　【調査面積】820㎡　【調査主体】佐賀市教育委員会
【調査期間】令和元年11月15日～令和2年3月31日
【調査概要】

三重津海軍所跡は、1859年に佐賀藩が設置していた洋式海軍根拠地で、船屋地区、稽古場地区、修覆場地区が存在する。平成30年度の修覆場地区における調査で検出した乾船渠（ドライドック）上流側の渠壁は、階段状の木組骨格と、渠壁内部と背面は砂と粘土を互層に積んだ造成土で構築されていることが確認されていた。今回の調査は、乾船渠渠底及び造成土分布範囲を確認するためのボーリング調査と、調査情報が不足する乾船渠下流側の現公園駐車場と河岸について、トレンチ調査を実施した。

地鎮遺構検出状況
※小皿３枚を伏せて埋納

９箇所設定したボーリング調査では、これまで想定していた渠底の位置がさらに深くなることや、２m程の砂と粘土の造成土のその直下に、寛政４年(1792)の島原大変の原因となった眉山の崩落によって生じた津波による堆積層が広範囲に分布していること等が確認された。トレンチ調査では、これまでの調査で確認できていなかった海軍所設置以前の建物地鎮遺構のほか、板と杭で構築された近世期の河川護岸の位置等を明らかにすることができた。今後これらの成果を検討し、史跡整備を進める計画である。(中野充)

15　精煉方跡２区

【所 在 地】佐賀県佐賀市多布施三丁目　【遺跡の時代と種類】近世～近代の生産遺跡
【調査の原因】重要遺跡確認調査　【調査主体】佐賀市教育委員会　【調査面積】100㎡
【調査期間】令和元年６月19日～ 12月16日

(推定)紙漉場跡(精煉方操業時)
※手前は近代の溝

礎石の根固め遺構(精煉方操業時代)
※礎石は喪失

【調査概要】

精煉方跡は、多布施川(江戸初期に整備された嘉瀬川の支流)の西岸標高4.0m前後の平坦地にあり、元は横武鍋島家の屋敷地であった場所に位置する。西方約500mの位置に築地反射炉跡(日新小学校敷地内)が、また南東約300mの位置に多布施反射炉跡(民間企業敷地内)など、周辺は幕末期に佐賀藩が西洋の先進知識・技術の研鑽を積み、近代化を推し進めた遺跡がある。

精煉方は、嘉永５(1852)年に、十代藩主鍋島直正の命により設置された、今でいう理化学研究所的施設である。蒸気機関の研究も行われ、蒸気機関車や蒸気船の雛型が製作され、その成果は三重津海軍所における日本初の蒸気船「凌風丸」の建造として結実している。このほかに電信機の開発やガラス器の製造・薬品や火薬・兵器関係の研究開発など多岐にわたる活動が行われた。明治以降は鍋島家経営時代(精煉所・精煉社)を経て、それを引き継ぐかたちで明治27年頃に民営の会社(精煉合資会社)となり、昭和14年頃まで操業したようである。

現在、操業時代を偲ばせるものは住宅の一部分

しかないが、１万数千㎡に及ぶ敷地は、精煉方時代の地割をよく残している。今回の発掘調査では、精煉方操業期は「紙漉場」・明治以降はガラス工場（精煉社）の職工住宅に比定される場所である、敷地北東部の１箇所に限定してトレンチを設定した。調査の結果、トレンチ南半部で重層的な整地層とその上面で５～10cm程度の砂質土を固く版築した土間を検出し、その土間に構築された礎石の根固め遺構６基、外に自然石の礎石も１基検出した。「紙漉場」と断定できるだけの材料は乏しいが、土間を持つ幕末期の何らかの施設があったことは確かである。また、トレンチ北部では、整地層とその上に構築された割石による礎石４基を検出した。「精煉社全図」に描かれた職工住宅とほぼ重複する位置であり、職工住宅の跡と推定する。（三代俊幸）

（推定）職工住宅跡礎石群（近代）

16　宇木汲田遺跡

【所在地】唐津市宇木　**【遺跡の時代と種類】**弥生時代の集落跡・墳墓
【調査の原因】重要遺跡範囲確認調査　**【調査主体】**唐津市教育委員会　**【調査面積】**48㎡
【調査期間】令和2年2月19日～令和2年3月25日
【調査概要】

宇木汲田遺跡は唐津市中部、夕日山山系から東側に派生する丘陵の末端から低地にかけて立地する。昭和5年の農地整備の際に偶然青銅器が発見されて以来、数次にわたり学術調査が行われてきた。

唐津市教育委員会では、平成26年度の調査以来、瀬戸口支石墓群の麓の調査を継続しており、集落域の広がりについての知見を深めてきた。今回の調査も、引き続き集落域の北側への広がりを確認するためにトレンチを設定し調査を行った。調査地の標高は約9m。その結果、702トレンチにおいて小児用甕棺墓を確認した。遺構は削平を受けていたものの、棺体の下半部は残存しており、弥生中期のものであることが分かった。今回の調査により、宇木汲田遺跡の集落構成要素の復元をする上で重要な情報を得ることができた。（美浦雄二）

702トレンチ遺構検出状況

17 唐津城跡（からつじょうあと）

【所在地】唐津市東城内　**【遺跡の時代と種類】**近世城館跡　**【調査の原因】**唐津城石垣再築整備事業
【調査主体】唐津市教育委員会　**【調査面積】**49㎡　**【調査期間】**令和元年10月7日～令和元年11月14日
【調査概要】

唐津城跡は、唐津湾に臨む満島山山頂（標高42m）を本丸とし、その南西に広がる砂丘上に二ノ丸、三ノ丸が連なっている。唐津城跡本丸では、平成20年度から唐津城石垣再築整備事業に着手しており、本丸石垣の解体修理を進めており、これに伴う発掘調査もあわせて実施している。

12年目となる令和元年度は、本丸南東の大手門を構成する大手門西側石垣（９Ｒ面石垣）の解体修理を行い、これに伴う石垣解体時の発掘調査を実施した。９Ｒ面石垣西側にある９面石垣は、平成29～30年度に石垣解体修理を実施しており、今回の９Ｒ面石垣一帯は平成29～30年度に施工ヤード等の関係で同時に解体修理ができなかった範囲である。平成29年度の発掘調査では、石垣天端面で大手門櫓の櫓台石垣を、石垣裾の遺構面では大手門礎石を検出していた。今回の調査ではこの櫓台石垣延長部分を検出しており、櫓台石垣の前では櫓台に上るための石段もあわせて検出した。櫓台石垣と石段は、石垣裏盛土が吸い出されたことによる陥没の影響を受け、大きく下に下がっている状況も確認した。

今回の調査では、唐津城跡本丸における重要遺構である大手門の遺構を確認しただけでなく、孕み等の変状が生じた石垣内部の状況及びその影響を検討するうえでも、非常に重要な成果となった。
（坂井清春）

９Ｒ面石垣解体完了状況

門櫓石垣と石段

18 飯洞甕窯跡（史跡肥前陶器窯跡）（はんどうがめがまあと）

【所在地】唐津市北波多稗田　**【遺跡の時代と種類】**近世初頭の窯跡　**【調査の原因】**保存整備
【調査面積】80㎡　**【調査主体】**唐津市教育委員会　**【調査期間】**令和元年５月20日～令和２年３月26日
【調査概要】

飯洞甕窯跡は唐津市南西部の岸岳山麓に位置し、丘陵の西側斜面に約50m隔てて飯洞甕上窯跡と同下窯跡が存在する。周辺には皿屋窯跡・皿屋上窯跡・帆柱窯跡が所在しており唐津市街地に残る御茶盌窯跡とともに史跡肥前陶器窯跡として指定を受けている。このうち岸岳山麓に残る窯跡群は一連の発掘調査成果によって窯構造や出土遺物の様相が判明し、朝鮮半島の窯業技術が直接伝播したことを示す窯跡や唐津焼最古期の窯跡群は、近世窯業の揺籃期における多様な姿を示すとの評価を受けて

いる。

肥前陶器窯跡保存整備事業第Ⅰ期の計画では、古窯の森公園内に所在する史跡窯跡のうち飯洞甕上・下窯跡およびその周辺について重点的に整備を行うことを予定している。直近の計画では岸岳古窯跡群のうち最も残存状況の良好な飯洞甕下窯跡を対象に、窯体の露出展示をするため展示公開施設の建築・設置を計画している。

整備の対象となる飯洞甕下窯跡は割竹式登窯で全長は18.8m、胴木間(燃焼室)以外の焼成室は7室ある。焼成室の規模は幅約2.2～2.3mで奥行きは2.1～2.2m、床面は水平である。標高は胴木間付近で約53m、窯尻付近で約60mである。

同窯跡は昭和初期に発見され、昭和31年、肥前陶磁研究会・古唐津調査部会によって発掘調査が行われた。その後長らく埋め戻されていたが、今回の史跡整備に伴い平成29年度に窯体の胴木間から第4燃焼室までの再検出を行った。下窯の胴木間は従来、当時の実測図より浅く扁平な構造を持つとされてきたが、再検出の結果、深さ約1mを測る舟底状を呈することが確認された。また、第2室と第4室の火床部分において、左側壁が外側にめくれる状況が観察されることから左側に木口が存在した可能性を指摘できる。なお覆屋の柱穴と考えられるピットを側壁から約1m以内の範囲で検出している。

平成30年度の調査では施設建設に先立ち、窯跡周辺における遺構の存否を確認するための調査を実施した。窯跡外周の前庭部を調査し、施設基礎範囲下半部(北側)の約100㎡を遺構確認面まで掘り下げ、遺構検出後写真測量を行った。小さなピットは多数検出されたが、建物の柱穴のように規則的な配置を取ることはなかった。窯体の前庭部は比較的平坦で露天の作業空間として利用していたと考えられる。なお遺物の出土も少なかった。

調査の3年目となった令和元年度は前年度の続きで飯洞甕下窯跡外周部後方の遺構の存否確認を実施した。施設基礎範囲上半部(南側)の約80㎡を遺構確認面まで掘り下げ、写真測量を行った。窯体両側ではかく乱坑と考えられる窯壁片を多量に含む掘り込みや小さなピットは検出されたが、いずれも規則的な配置は見られなかった。窯体最上室から現況覆屋を隔てて、約1m外において窯尻と考えられる部分に、わずかな炭の堆積層の範囲を確認した。今回の調査によって窯体の外周部に明確な遺構の残存は確認されなかったが、遺物は同窯で焼成されたと考えられるさまざまな器種の陶器片が出土し、あわせてハマやトチンなど窯道具が出土した。(鮎川和樹)

窯跡近景(東から)

窯尻部分炭堆積状況(北から)

19　古賀遺跡３区

【所在地】鳥栖市古賀町字稲塚、宿町字船底　【遺跡の時代と種類】弥生時代～古墳時代の集落跡

【調査面積】500㎡　【調査の原因】宅地造成　【調査期間】令和元年５月24日～７月５日

【調査概要】

本遺跡では、過去に若葉小学校の建設に伴う１～２区の調査を実施し、弥生時代～平安時代の遺構を確認している。

本調査区は３区で、過年度調査地である若葉小学校より南東300m、標高約30mの段丘上に立地する。調査区は西の宿町側と東の古賀町側の２地区に分け、宿町側をＡ地区、古賀町側をＢ地区とした。調査の結果、Ａ地区では住居跡３軒、土坑１基、溝１条、そのほかピット156基を確認した。18Lコンテナ６箱分の遺物が出土した。Ｂ地区ではピット３基を確認したが、遺物は土師器の小片が少量確認できたのみである。住居跡３軒は出土遺物から弥生時代終末から古墳時代初頭と考えられる。

今回確認できた遺物は、弥生時代後期から古墳時代前期までが大半を占めている。それ以降の遺物は少なく、このことから古墳時代初頭以降に集落は断絶したものと推測される。当該時期の住居跡は、過去の１～２区調査では確認されておらず、市内でも内精遺跡等でわずかに確認されている程度である。今回確認できたことは遺跡の性格を知るうえで大きな成果といえる。（龍孝明、藤岡怜史）

古賀遺跡全景（東から）

古賀遺跡３区Ａ地点（俯瞰：上が北）

20　本原遺跡４区

【所在地】鳥栖市原町字本原　【遺跡の時代と種類】弥生時代～平安時代の集落跡

【調査面積】872㎡　【調査の原因】道路拡幅工事　【調査期間】令和元年９月５日～12月６日

【調査概要】

本遺跡は、原町を南北に貫く丘陵（標高20～25m）の尾根を中心に分布する。この丘陵の谷を挟んだ東側の丘陵には姫古曽神社が鎮座しており、『肥前風土記』に記された姫社郷を構成する遺跡と考えられる。本調査対象地区は、本原遺跡西端の斜面部に位置し、標高20～22mを測る。調査以前は宅地や商店として土地利用されていた。

本調査は、昭和62年の１次調査（１区）と平成７年の２次調査（２区）、平成27年の３次調査（３区）に続く４次調査（４区）となる。過去の調査から丘陵の尾根から西斜面にかけて弥生時代から奈良時代にかけての集落が確認されている。

本調査対象地区は３地区に分かれており、北からＡ地区、Ｂ地区、Ｃ地区とした。

調査の結果、A地区とB地区の間に最大深度GL－1.5mの谷状地形が確認された。調査区の地形はこの谷を最深部とし、南北に向かって緩やかに上がる。A地区では191基、C地区では3基の小穴を検出したが、明確な集落関連遺構を確認することができなかった。B地区では7世紀後半～8世紀の住居跡3軒、井戸2基、土壙墓4基を確認した。

7世紀後半～8世紀の遺構は、過去の調査、周辺の遺跡を含め非常に少ない。風土記の成立直前の姫社郷を知るうえで貴重な資料である。（龍孝明、藤岡怜史）

本原遺跡遠景（南から）

古賀遺跡3区A地点（俯瞰：上が北）

21　門戸口（もんとぐち）遺跡

【所在地】鳥栖市宿町　**【遺跡の時代と種類】**古墳時代～奈良時代の集落跡

【調査主体】鳥栖市教育委員会　**【調査面積】**2,500㎡　**【調査の原因】**市役所新庁舎建設

【調査期間】令和元年10月8日～令和2年2月28日

【調査概要】

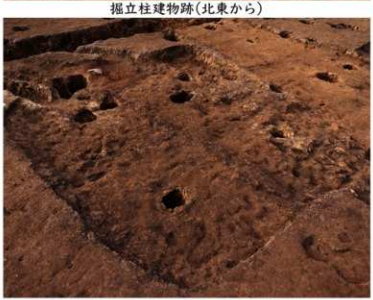
調査区は鳥栖市中心部より北東に位置し、国道34号線西側に立地する。標高は23m前後で門戸口遺跡の東端付近に位置する。本遺跡は昭和40年代前半に庁舎建設と同時期に水田・畑地として造成しグラウンドとして整備している。

調査の結果、竪穴建物跡15軒、掘立柱建物跡6棟、土坑16基、竪穴状遺構を2基確認している。遺物は土器・鉄器がコンテナ12箱分出土している。竪穴建物跡と掘立柱建物跡は調査区の東半分で検出しており、竪穴建物跡の平面プランは方形で規模は概ね一辺が4m、深さ5～10cm前後を測り、4本柱である。竈及び被熱による赤化面を確認しており、竈は北壁に付いているものが多い。埋土中からは須恵器の杯、土師器甕等が出土している。掘立柱建物跡はすべて2間×2間の総柱建物であり、柱穴の直径は50cm前後を測る。柱穴

門戸口遺跡全景（東から）

門戸口遺跡全景(俯瞰：上が北)

掘立柱建物跡(北東から)



竪穴建物跡(南東から)

の間隔は約1m弱である。建物の主軸はほぼ同じだが、竪穴建物とは少しずれるため、時期が異なる可能性がある。

土坑は平面形が縦長の楕円形のものが多く、調査区内に広く分布している。最も規模の大きいSK1から多量の遺物が出土しているが、遺物の時期は古墳時代～奈良時代のもので時期幅があり、須恵器の杯、椀、蓋、大甕、土師器の椀、甑等が出土している。集落を構成する建物類からの出土は少ないため、土坑内の古墳時代・奈良時代の遺物は古代における本遺跡周辺の土地利用が変化する中で、出土したものを廃棄したと考えられる。

本遺跡で注目すべき遺物として、刻書紡錘車と土製権がある。刻書紡錘車は、断面形が薄台形で平坦面側に「大伴目」と反時計回りに刻書されている。出土例がほぼ関東にかぎられているため、東国からの一時的な移入、主に肥前国への防人の配置が関連すると考えられる。時期については上限が周辺遺構から出土した須恵器類から7世紀後半、下限は防人が一旦廃止される天平2(730)年以前、もしくは大伴氏から伴氏に改姓する823年以前に求めることができる。土製権はSK1の表層から出土している。秤のおもりで①横木につるすための紐を通す孔を穿孔した作り出しによる鈕②金属権の側面の装飾を模した体部③台座もしくは金属権の下部にある稜線を模した下部で構成されている。時期は共伴する須恵器等から8世紀代と考えられる。

門戸口遺跡の周辺には、養父郡家に比定される蔵上遺跡があり調査区東側には西海道肥前路が推定されている。そのような立地と、防人に関連する刻書紡錘車や律令下の度量衡制度で使用される権が出土したことから、養父郡家に関連する施設群を有する遺跡であるといえる。(岡田晴菜、藤岡怜史)

22　日峯社下窯跡（史跡　大川内鍋島窯跡内）

【所在地】伊万里市大川内町字二本柳乙　**【遺跡の時代と種類】**江戸時代の窯跡

【調査の原因】史跡整備（内容確認）　**【調査主体】**伊万里市教育委員会　**【調査面積】**11㎡

【調査期間】令和元年10月15日～令和２年３月31日

【調査概要】

鍋島焼は、佐賀藩が将軍家に献上することを主目的に作られた藩窯の磁器製品である。当初、有田の岩谷川内で製作されていたが、1660年代に大川内山へ移転し、時代の変遷をたどりながら廃藩置県までその生産が続けられた。

日峯社下窯跡は、大川内山に移転した直後の窯跡であり、大川内山の谷地形の上位に所在している。平成26年度（2014）から史跡整備のための調査を継続して実施している。

窯体は階段状連房式登窯で、全長は約52m、胴木間以外の焼成室は15室あると推定している。焼成室の規模は幅約4.0～4.8m、奥行き約3.3～3.8m、床面は水平である。標高は胴木間（燃焼室）付近で約139m、窯尻付近で約153mである。

令和元年度は、初期鍋島を焼成したと想定される第８・９室よりも下位に位置する第５・６室での作業段や作業通路を確認する調査を行った。また、第６室の物原の堆積状況と５～７次調査で検出した第８室のマウンド状物原の北側端部を確認する調査を行った。どちらの調査も史跡の内容を確認するための調査であり、遺構の保存を前提としているため試掘坑（トレンチ）調査を行った。

第５・６室の作業段及び作業通路を確認する調査（調査地点トレンチ２）では、上位の平坦面から斜面となり、それに続く下位の平坦面を確認したが、明確な段状（法面状）の遺構は確認できなかった。下位の平坦面では改修による整地面を確認した。さらに、その後の堆積状況とそれに伴う平坦面の再度の作り出し状況から、平坦面を維持する意図的な意識が推察される。また、斜面下端から下位の平坦面で後世の撹乱部分を検出しているが、この部分については、石垣の根石部分の抜き取り痕跡である可能性が考えられる。

第６室の物原及びマウンド状物原の北側端部を確認する調査（調査地点トレンチ３）では、物原の堆積変遷に係わる地山層に含まれる岩の一部を検出した。この岩は２次調査でも確認しており、かなり大きな岩と思われる。物原の土層堆積状況から、大き

調査地点トレンチ２完掘状況（北西から）

調査地点トレンチ２調査風景

く２回の変遷が推察され、Ⅰ期は岩部分まで堆積した範囲であり、岩部分が土留めの役割をしたと思われる。２期はⅠ期の西側に廃棄し最終的にはⅠ期部分を覆うまで堆積している。

今回の調査で初期鍋島焼の破片約50点が出土し、特にⅠ期の堆積層内からは古い様相と思われる初期鍋島焼の小片が出土している。また、特異な遺物として伏せ焼きをした一般向けの青磁香炉が出土している。

今回、調査を行った試掘坑から第８室のマウンド状物原出土の鍋島焼陶片と同種のものが出土しており、今回の物原調査箇所がマウンド状物原の北側端部であることが推察される。（船井向洋）

調査地点トレンチ３完掘状況（北東から）

調査地点トレンチ３完掘状況（西から）

調査地点トレンチ初期鍋島焼出土状況

23　鍋原窯跡（なべばるかまあと）

【所在地】佐賀県伊万里市松浦町大字山形字鍋原　**【遺跡の時代と種類】**近世～近代の窯跡

【調査主体】伊万里市教育委員会　**【調査面積】**400㎡

【調査の原因】広域ごみ処理施設建設に係る地域振興事業に伴う緊急調査

【調査期間】令和元年６月３日～令和元年12月27日

【調査概要】

鍋原窯跡は伊万里市市街地から東に約6.4kmに位置し、黒岳から北に延びる丘陵の終端部に位置する。南西200mには宮ノ元遺跡が存在する。調査地の現況は畑地である。

平成27年12月から平成28年１月にかけて確認調査を実施し、窯跡の範囲と内容の概略を把握した。この際に窯体を確認したが、窯体の一部と物原の全体は後世の農地整備によるかく乱を受け、ニ

次堆積状態であることが確認できた。

令和元年6月3日から令和元年12月27日にかけて窯跡の発掘調査に着手し、窯跡の調査は伊万里市教育委員会が実施した。

調査の結果、窯跡は窯室が計8室であったと考えられる。ただし、6室及び7室相当部分は後世の削平によって丸ごと消失し、課混じりの8室についても右側の窯体が削平されている。残存長は約25.0mであった。

窯体の焼成室は確認できた範囲で横幅5.83m～7.27m、奥行2.02～4.0m、上位の焼成室ほど規模が大きくなるため、窯体前体の形状は扇形を呈していると思われる。窯体は谷に面した緩斜面上に築窯されており、床面と奥壁の下部以外の窯体はトンバイで構築されたと考えられる。また、窯は当初7室で構成されていたものと考えられ、後に胴木間を新たに作って、8室にしたものと考えられる。この新たに作った胴木間は焚口が5カ所あることから、近代に入ってから作ったものと考えられる。

窯体外の遺構として、窯尻の後背部に甕が列状に配置されている状況が確認されているが、その性格については不明である。また、窯体の側壁外に上屋の柱穴と思われる土坑が確認できているが、排水溝に相当する遺構は確認できなかった。

鍋原窯跡全景(俯瞰：上が西)

出土遺物として陶器の甕・すり鉢が埋土や物原の二次体積部から大量に確認できた。また、瓦や土管も出土しており、鍋原窯跡で焼成していたものと考えられる。陶器については18世紀後半に生産していたと考えられ、一旦操業をやめた後、近代に操業を再開して瓦や土管を焼成するようになったと考えられる。地域の住民によると大正年間まで操業していたとのことである。(一本尚之)

窯尻検出状況(東から)

24　一の幡(いちのはた)古墳群

【所在地】みやき町大字白壁　【遺跡の時代と種類】古墳時代前期～中期の集落跡

【調査の原因】戸建て賃貸住宅建設　【調査面積】78㎡　【調査主体】みやき町教育委員会

【調査期間】令和2年3月28日～3月31日

【調査概要】

脊振山系から南に伸びる台地上に位置し、標高17mを測る。一の幡古墳群の載る台地上ではこれまで本格的な発掘調査が行われた例はなく、遺跡の実態は不明な点が多く、遺跡名となっている古墳の存在も明らかになっていない状況である。

今回の調査は、宅地造成で削平される部分及び合併浄化槽設置部分について調査を実施した。調査区はA区～F区までの6つの小区に分かれる。確認された遺構には竪穴住居跡、溝、ピットがある。竪穴住居跡はA区から検出された。方形の住居址になるとみられ、規模は現状で3.9m×3.6mを測る。埋土中から須恵器の坏身などが出土しており、古墳時代後期のものとみられる。溝はB区で検出された。溝上面に堆積している黒褐色土中からは古墳時代前期の土師器がまとまって出土しており、何らかの遺構が存在している可能性が高く、溝も遺構に伴うものと推定される。ピットはB区とF区を除く調査区で確認されている。A区で確認されたピットからは古代のものとみられる須恵器の蓋や古墳時代後期の須恵器などが出土している。

今回の調査では調査面積が狭く、遺構検出も思うようにできなかったが、古墳時代前期の土器や、古墳時代後期の集落、古代の集落が確認されるなど丘陵上の遺跡のあり方の一端を明らかにすることができた。（太田睦）

A区完掘全景（東から）

B区遺物出土状況（東から）

25　姫方原（ひめかたばる）遺跡H区

【所在地】みやき町大字簑原　**【遺跡の時代と種類】**古代の集落跡　**【調査の原因】**宅地造成
【調査面積】400㎡　**【調査主体】**みやき町教育委員会　**【調査期間】**令和元年７月５日～７月13日
【調査概要】

脊振山系から南に伸びる台地上に位置し、標高約34mを測る。台地上ではこれまでに1973年の調査及びA～G区の８次にわたる調査が行われており、弥生時代中期から古墳時代前期の集落跡が確認されている。また、JR長崎本線を挟んで北に位置する姫方遺跡では400基以上の甕棺や石棺、方形周溝墓、円墳などが確認されており、姫方原遺跡の集団墓地と考えられている。

今回の調査は、宅地造成工事に伴い遺跡に影響があると考えられる部分について調査を実施した。全体にカクランが多く入り、遺構の残りはあまり良くなかった。検出された遺構には、土坑２基、小穴がある。土坑は、調査区の南東部で検出した。SK001は、平面形は隅丸方形を呈する。遺物は近世土器や陶器などが出土しており、時期は近世に属するものと考えられる。SK002は、平面形は長方形を呈し、長さ5.21mを測る大型の土坑である。遺物は古代の須恵器や土師器が出土しているこ

とから、時期は古代に属すると考えられる。小穴は調査区全体から検出されているが、南東部の壁際で検出したP１からは完形に近い須恵器の皿が出土した。時期は８世紀代のものとみられる。

今回の調査では、これまで姫方原遺跡において調査例が少なかった古代の遺跡の広がりを確認することができた。残念ながら遺物の出土が少なく、また遺構の残りもあまりよくなかったが、今後周辺の調査が進展することにより、古代の集落のあり方が解明されていくことを期待したい。（太田睦）

H区完掘状況（北東から）

H区SK002完掘状況（北から）

26　板部城跡（いたべじょうあと）

【所在地】みやき町大字中津隈　**【遺跡の時代と種類】**弥生時代・古代の集落跡、中世の館跡？

【調査の原因】町道建設　**【調査面積】**870㎡　**【調査主体】**みやき町教育委員会

【調査期間】令和元年11月20日～令和２年１月31日

【調査概要】

脊振山系から南に伸びる台地上に位置し、標高14～15mを測る。板部城跡の乗る台地上ではこれまでに調査が行われた例はなく、今回が初めての調査となった。

今回の調査は、町道建設工事に伴い調査を実施した。調査に入る前は竹林が広がっており、竹の根に苦労させられながらの調査となった。検出された遺構には、掘立柱建物、溝、土坑、小穴がある。掘立柱建物は弥生時代前期のものとみられ、１間×１間のものと１間×２間のものが確認されている。柱掘方は、方形を呈するやや大型のものもある。土坑には、断面が袋状を呈する貯蔵穴とみられるものがある。溝は、調査区北側で確認され、東側は調査区外にのび、西側は中世の溝に切られている。断面は逆台形を呈し、中からは大量の土器が出土している。注目される遺物としては、皮袋型土器がある。ラグビーボール型の体部に、直口の口縁部がつく形で、端部の片方には水等をそそぐための穴があけられている。

板部城跡全景（俯瞰：上が北）

古代の遺構には土坑がある。調査区のほぼ中央から検出され、中からは輪状つ

まみを持つ須恵器の蓋や土師器甕などが出土した。

中世の遺構は、溝跡がある。調査区東側の一段高くなっている部分を区画するように溝がめぐっている。調査区西側に位置し、南北にのびる溝は幅約5mを測り、底面がフラットで一部硬化したところもみられることから、通路として利用されていた可能性が高い。南側から東側をめぐる溝は、片側が調査区外に広がっており、正確な大きさは不明である。調査区南東隅付近には整地に伴うとみられる包含層が広がっており、中からは青磁や白磁、瓦器片などが出土した。

弥生時代溝遺物出土状況(南西から)

このほかに特徴的な遺物としては、銅矛の袋部の破片がある。中世の土坑に紛れ込んでいたもので、正確な時期は不明だが、この付近に青銅器の埋納が行われていた可能性を示すものである。(太田睦)

27　三上(みかみ)遺跡9区

【所在地】三養基郡上峰町大字坊所字三上　**【遺跡の時代と種類】**古墳時代～奈良時代の集落跡
【調査の原因】建売分譲住宅建設工事　**【調査面積】**300㎡　**【調査主体】**上峰町教育委員会
【調査期間】令和元年8月1日～9月13日
【調査概要】

三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約8～16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。本町と西方の吉野ヶ里町にまたがる目達原丘陵は、戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されているが、それ以前はいくつかの丘陵と谷が入り組んだ複雑な地形を呈しており、一帯の丘陵部には大塚、古稲荷塚、稲荷塚などの前方後円墳が点在し目達原古墳群を形成していた。本調査区の形状は南北方向に延びる長方形を呈し、遺構検出面での標高は15.30m前後を測る。

調査区全景(俯瞰：上が北)

調査の結果、土坑5基・ピット17基を検出したが、全体的に遺構密度は希薄である。SK-902は、調査区中央で検出した土坑である。遺構の平面形は楕円形プランを呈し、長軸2.80m、短軸1.92m、遺構検出面からの深さ0.63mを測る。遺

構の断面形状は逆台形を呈し、床面は凹凸の起伏が著しい。埋土中から7世紀末～8世紀前半頃と考えられる須恵器の坏蓋・坏、土師器の甕・皿・甑などが出土した。その他の遺構については、埋土中より遺物が出土していないので、遺構の時期・性格は不明である。

本調査区が所在する三上地区は、近年住宅化が進み、個人住宅・集合住宅の建設工事件数が年々増加傾向にある。これまで三上遺跡では、住宅建設・宅地造成工事に伴う本調査を9件行い、確認調査の実施件数は80件を超える。この地区の遺構検出状況の特徴としては、遺構自体は確認されるが、遺構密度が希薄であることがほとんどで、戦時中の陸軍飛行場建設に伴う削平を大きく受けているものと考慮される。三上遺跡は、このような状況から正確な遺跡の評価が難しい地域ではあるが、今後の調査例の増加を待って遺跡の様相を把握に努めていきたい。（松浦智）

28　西前田（にしまえだ）遺跡7区

【所在地】神埼郡吉野ヶ里町三津字西前田　**【遺跡の時代と種類】**弥生時代～古墳時代・中世の集落跡
【調査の原因】個人住宅建設　**【調査面積】**140㎡　**【調査主体】**吉野ヶ里町教育委員会
【調査期間】令和元年11月15日～令和元年12月24日
【調査概要】

遺跡は田手川の西岸で、脊振山地の南麓から緩やかに傾斜して広がる河岸段丘の南部に立地している。調査地は遺跡の北東部に位置し、水田部より比高が2m程の南北に伸びる微高地で、標高は25.9mある。周辺では弥生時代の遺構が多く見つかっており、南側隣接地では宅地造成に伴い甕棺墓を主体にした墓地を、南西150mでは県営圃場整備事業に伴って竪穴住居跡・掘立柱建物跡などの集落跡が調査されている。北側には庄尾分遺跡(別称：タヶ里遺跡)があり、弥生時代後期から古墳時代の竪穴住居跡が多数発見されている集落跡を中心に、縄文時代から中世の遺構が発見されている。

7区からは、弥生時代の土壙墓1基、甕棺墓跡1基、古墳時代の土坑が6基、中世の溝跡が1条検出されている。土壙墓は二段掘りで、墓坑の長軸方向と同方向の棺部を墓坑の壁に寄せて斜めに掘り込んでいる。棺部は平面が長楕円形で棺底は船底形である。木棺の痕跡は確認できなかった。甕棺墓跡は古墳時代の土坑に大きく壊され甕棺そのものは残っていなかったが、土坑の掘り込みの形状や埋土の特徴から甕棺の抜き跡と考えられる。土壙墓・土坑とも土器の小片が数点出土しただけで、詳細な時期が明確になる遺物は無かった。古墳時代の土坑は、長軸で2m超の大型で深さが0.6mあるものや、長軸で1m程度の浅いものがあった。各土坑とも土器の出土があったが、埋土に焼土が多く検出された土坑では後期の須恵器・土師器が多く出土した。中世の溝跡は西から「へ」の字型に屈曲して南東に伸びており、溝跡の断面は下半が逆台形で上半は大きく広がっている。埋土には部分的に粗い砂土の堆積があり、流水があったと考えられる。（久保伸洋）

土壙墓土層断面（西から）

3　令和元年度(平成31年度)の指定・登録等文化財一覧

種　別	名称及び員数 指定等年月日	所在地 所有者等	概　要
国登録 有形文化財 (建造物)	**草伝社(旧井手家住宅)** **店舗兼主屋・倉庫　計2件** 令和元年９月10日告示	唐津市 個人	唐津市東部旧徒須恵宿の町家。建物は路地に西面して建つ切妻造桟瓦葺の２階建て、北に土間、南に二列四室を配して南列奥を客座敷とし、北の落棟に台所等、南の列棟に続き間の座敷を設ける。２階は一室間の倉庫とする。店舗兼主屋北側に並んで建つ倉庫は、木造２階建、切妻造桟瓦葺で、外壁を縦板張とし、南面中央に戸口を設け、西側の妻を路地に面する。当初は２階を渡廊下で店舗兼主屋に接続し、一体の収納空間として利用した。唐津周辺の商家の伝統的な店構えと附属建物が残り、宿場町の景観を伝える大型町家である。
佐賀県 重要文化財 (絵画)	**朝日　青木繁筆　一面** 平成31年４月26日告示	佐賀市 佐賀県立 小城高等学校 同窓会 黄城会	本作は、青木の佐賀滞在期に描かれた作品のうち、最も大判で、しかも油彩画の絶筆という点において、彼の佐賀滞在期を象徴する作品である。青木は明治41年(1908)暮れに久留米の実家を出て、２年余り佐賀に滞在した。佐賀市には三根霞郷と森三美、また小城市には平島信がおり、青木は彼らのもとに身を寄せながら、洋画や水彩画等を制作した。青木の佐賀滞在時である明治30年代末～40年代初頭、佐賀県内で本格的に洋画を描くことができる人物は、旧制中学校の図画教師等ごく少数に限られ、県内洋画壇はいまだ形成されていなかった時期であり、本作は、油彩によって近代的な眼差しで佐賀の風景を描いた最初期の作品であり、佐賀の洋画壇発祥の契機と位置づけられる。
佐賀県 重要文化財 (工芸品)	**小袖地ドレス　１着** 平成31年４月26日告示	佐賀市 公益財団法人 鍋島報效会	本作品は、明治という西洋の文化導入期に「鹿鳴館の華」と称され文明開化の一翼を担った鍋島栄子夫人(1855～1941)が着装したと考えられるもので、日本の伝統美を優雅さの中に華やかさを表出した和洋折衷のドレスとして創成した特異な存在である。意匠性にも優れた模様の小袖を巧者の手慣れた技術と凝った手法を用いて巧みに仕立て上げ、ドレスデザインの観点からも優美な感性に裏付けられた優品である。また、小袖地を仕立てたドレスの現存例が極めて少ない中、侯爵家である鍋島家に代々伝えられてきた本作品は、所用者と伝来が判明するものとして希少性が高い。さらに、本作品は、伝統的な和装の小袖形状や模様を生かしながら欧米で流行のスタイルと巧みに融合させている点で優れた作品であり、美術的にはもちろん、服飾史上、また侯爵鍋島家あるいは華族の役割を考える上で歴史的にも注目される。

種　別	名称及び員数 指定等年月日	所在地 所有者等	概　要
佐賀県 重要文化財 （考古資料）	**藤木遺跡出土銅型　4点** 平成31年4月26日告示	鳥栖市 鳥栖市	4点の銅型は、いずれも比較的近い位置からの出土で、廃棄時期が明確であることから資料的価値は極めて高い。銅釦の銅型は国内初出であり、円環型銅銙の銅型と共に、これまで製品の製作地が国内か、国外かで意見が分かれていたが、少なくとも一部が国内生産品であることが明らかとなった。銅鏃銅型は、単鋳式で、背面に鋳型緊縛用と想定される溝状の彫り込みがみられるなどの特徴的な要素も窺え、青銅器生産体制や技術の変遷まで言及できる価値も有している。佐賀県内の青銅器生産は、主に中期初頭から中期前半を中心に認められるものの、中期後半以降は散発的にしか確認できなかったが、この藤木遺跡の銅型の出土により、鳥栖地域では中期から後期まで継続していたことが明らかとなった。
佐賀県 名勝	**旧武雄邑主鍋島氏別邸庭園** **（御船山楽園）** 平成31年4月26日告示	武雄市 個人	御船山の断崖絶壁の南西麓において、弘化2年（1845）に武雄邑主鍋島茂義（1800～1862）が京都から狩野派の絵師を招いて造った「萩の尾園」という別邸の池泉庭園を基礎とする庭園である。類いまれな自然景観を取り込み江戸時代に造られた後、近代以降も発展を遂げるなど芸術上・鑑賞上価値が高く、その立地及び造営の経緯の観点から造園史上も価値が高い。それらを裏付ける文献・資料も豊富に存在しており、国登録記念物に登録されている。

草伝社（旧井手家住宅）店舗兼主屋

朝日　青木繁筆（佐賀県立小城高等学校同窓会 黄城会 所有）

小袖地ドレス（公益財団法人鍋島報效会 所有）

銅釦鋳型

銅釧鋳型

銅鏃鋳型(1)

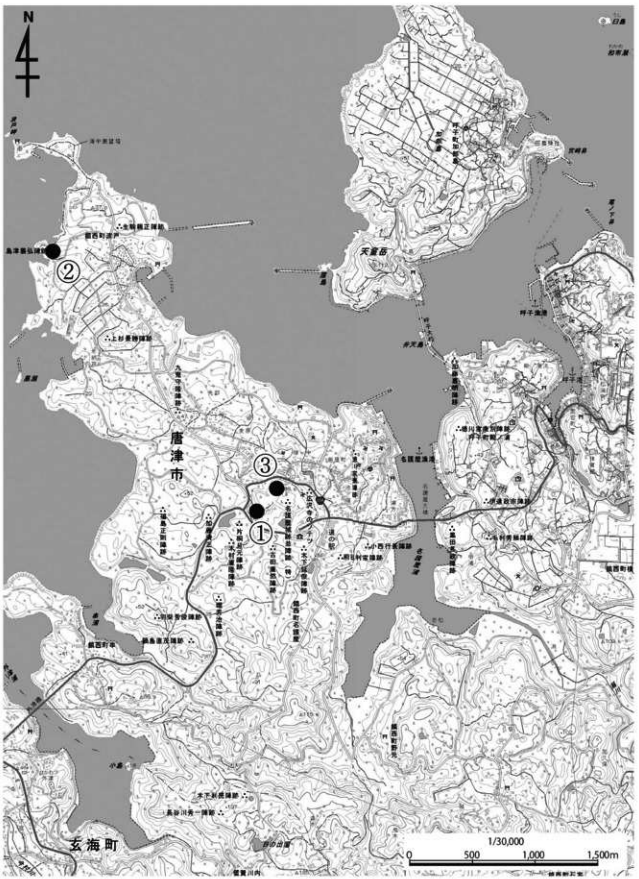
銅鏃鋳型(2)

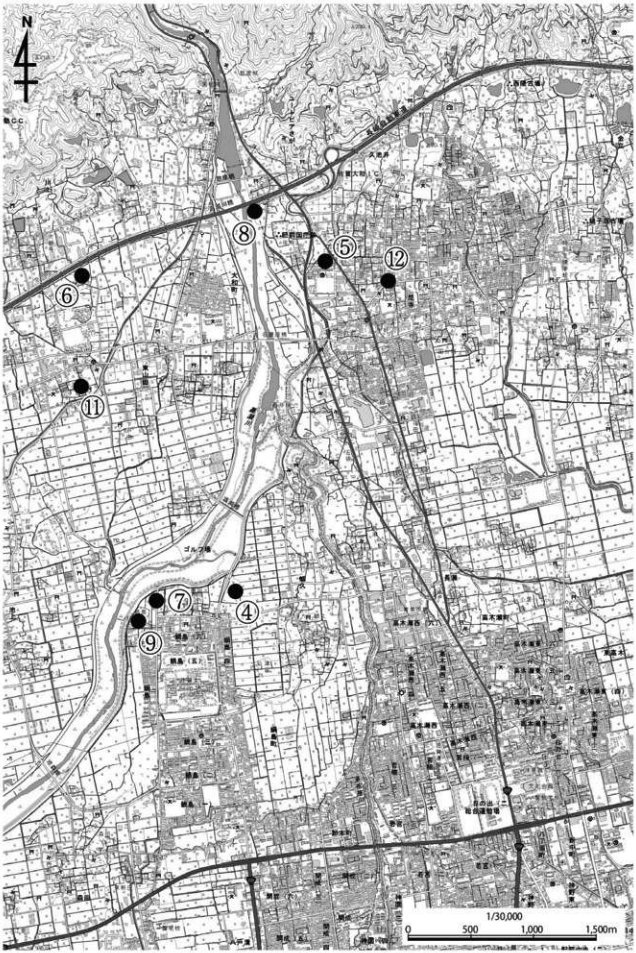
藤木遺跡出土鋳型(鳥栖市 所有)

旧武雄邑主鍋島氏別邸庭園(御船山楽園)　ツツジ谷と端岳

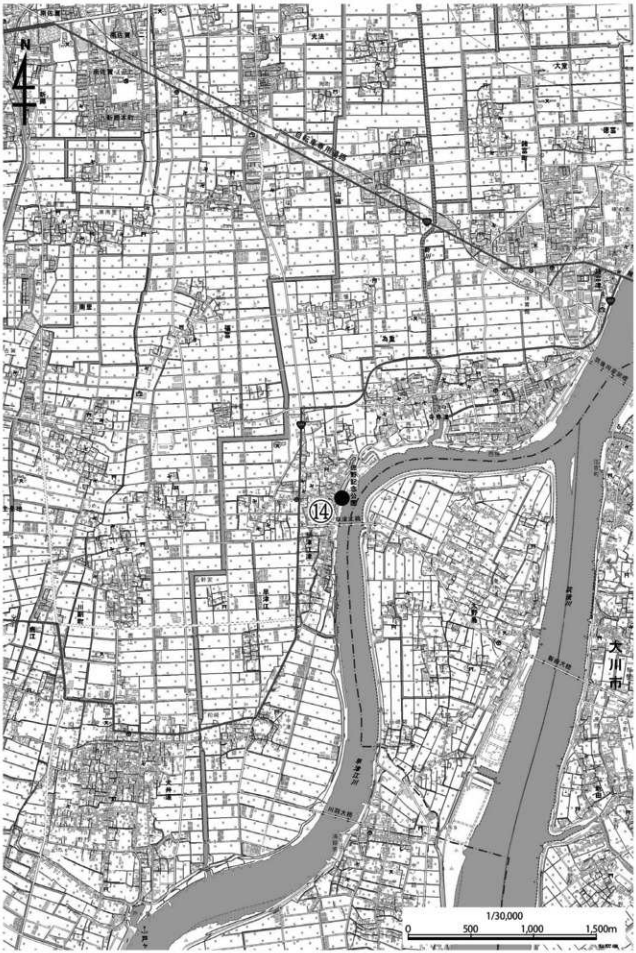
4　所載遺跡位置図

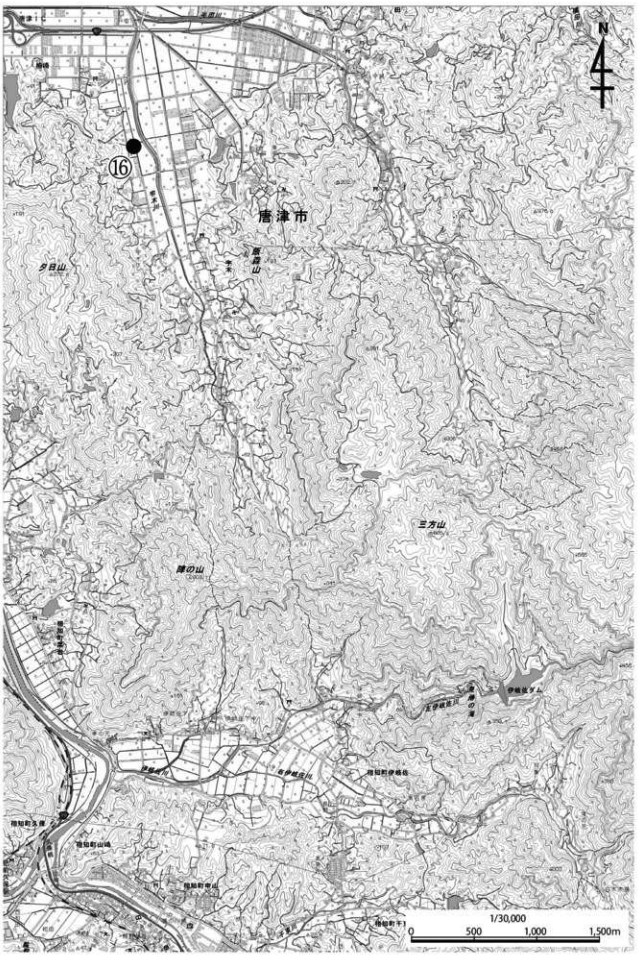
図中の丸数字は、本書20頁の「所載遺跡一覧表」における各遺跡に付した番号に対応している。



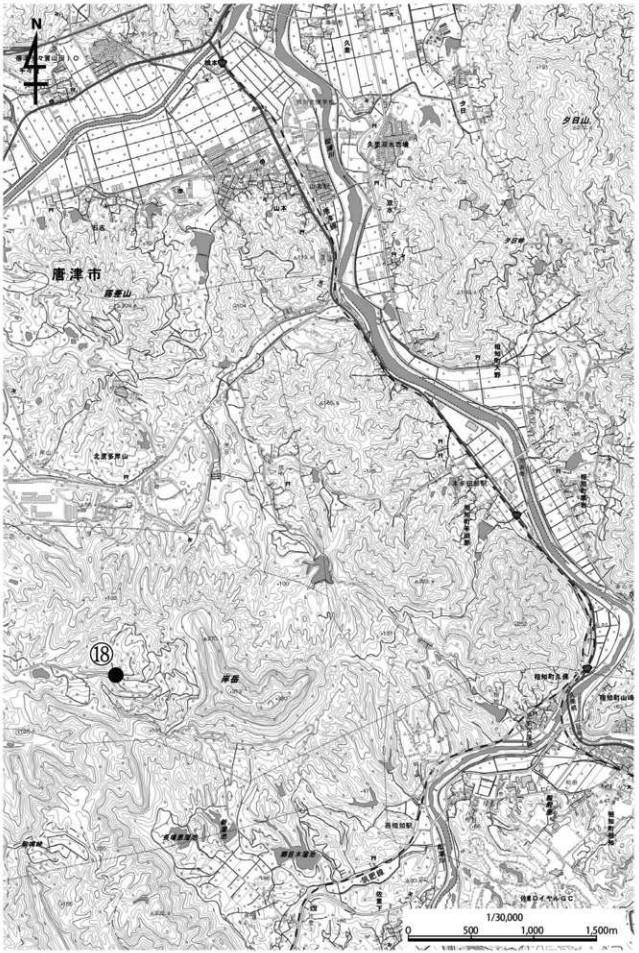

N
⑧
⑤
⑫
⑥
⑪
⑦
④
⑨
1/30,000
0
500
1,000
1,500m

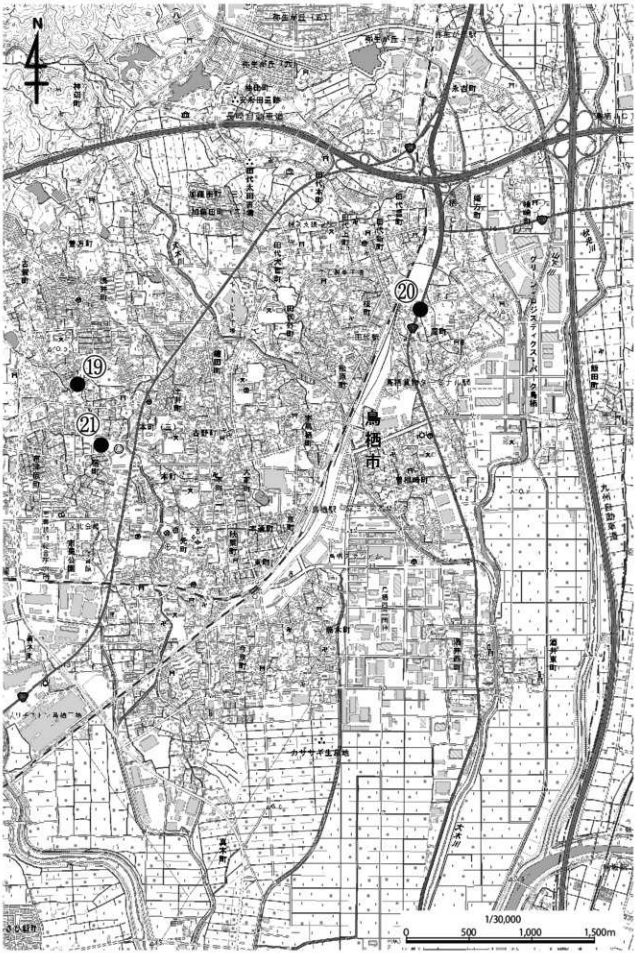
N
佐賀市
⑩
⑬
⑮
1/30,000
0 500 1,000 1,500m

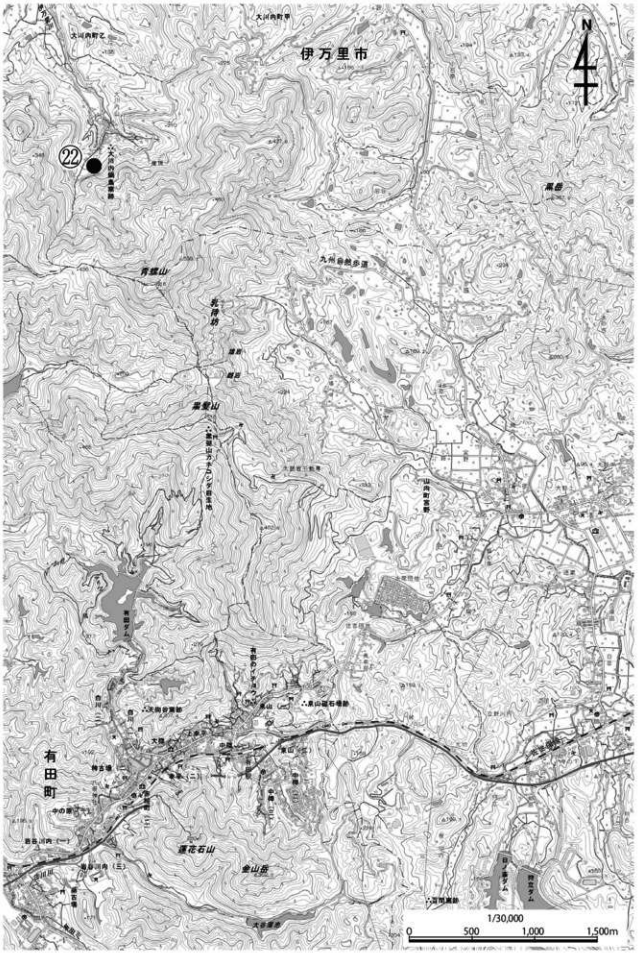

⑭
大川市
1/30,000
0
500
1,000
1,500m

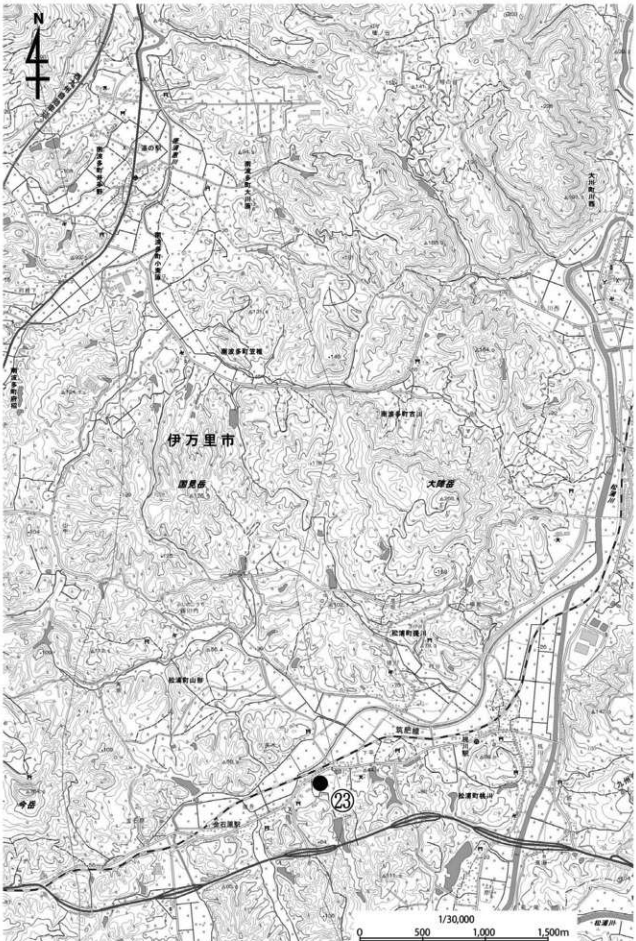

⑯
唐津市
夕日山
鷹取山
三方山
陣の山
N
1/30,000
0
500
1,000
1,500m

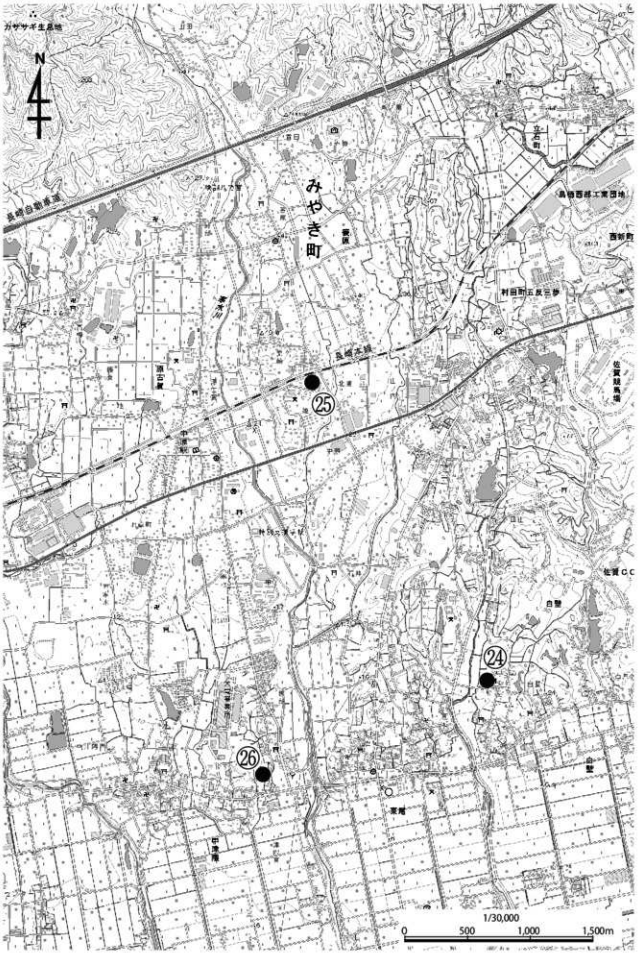
N
⑰
唐津市
1/30,000
0
500
1,000
1,500m

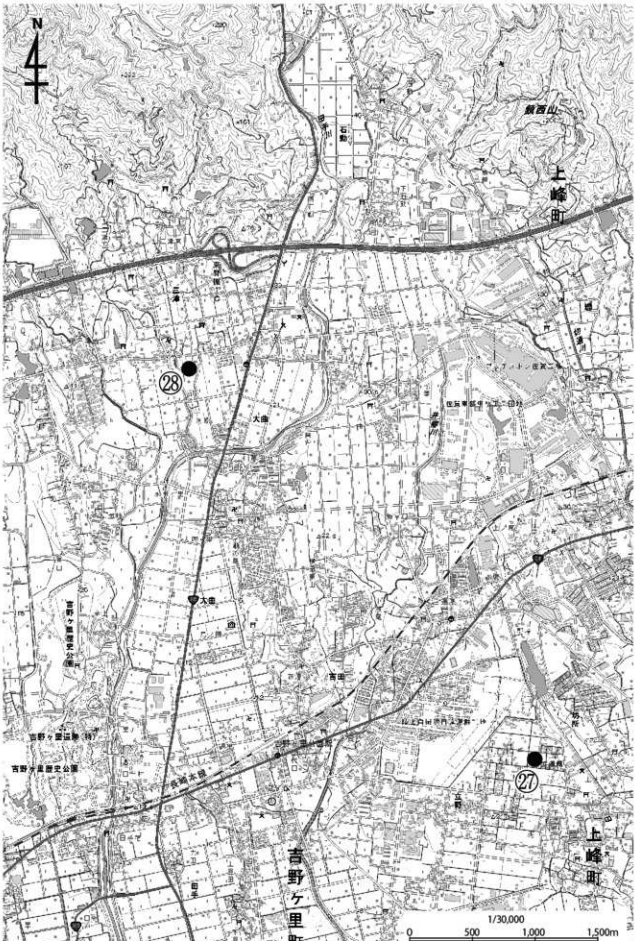

N
唐津市
⑱
1/30,000
0
500
1,000
1,500m


N
⑲
⑳
㉑
鳥栖市
1/30,000
0
500
1,000
1,500m


伊万里市
有田町
N
22
1/30,000
0
500
1,000
1,500m


N
伊万里市
国見岳
大隆岳
⑳
1/30,000
0
500
1,000
1,500m


N
みやき町
長崎自動車道
長崎本線
⑤
㉔
㉖
1/30,000
0
500
1,000
1,500m


N
上峰町
吉野ヶ里町
28
27
1/30,000
0
500
1,000
1,500m

佐賀県文化財年報 15（2019年度）

発行年月日　令和3年(2021年)5月31日

発　行　佐賀県 地域交流部 文化・スポーツ交流局
文化課 文化財保護室
〒840－8570　佐賀県佐賀市城内一丁目1番59号
TEL　(0952)25－7232　　FAX　(0952)25－7321